

南無古書地獄大菩薩

処がその頃から第一次世界大戦のインフレの波にのせられ、漁士に貸した金は一年後には只のよう

だがとうとう家がつぶれて、二百年もつづいた網元も止めて、私は小学校を中途退学した。

四歳で三島の女郎屋に売られた妹を引とるべく、一年八十円の前

通信局工務員の採用試験が中学卒業程度（旧制）と云うのを試験を受けた所五百人中五十人の中にはいつてどうやら生活が安定している。ほとりとしたが弟妹五人の面倒を引受けた手前、新刊書は一冊も買えなかったが、安い古本を漁って読んだ。趣味に書道をしたのも少年時代のアルバイトの延長のようなものだった。

昭和八年同志と新日本書道会を作ったが資金が足りずそれ迄集めた古本を売って資金の足しにした。月刊の書道誌を出した。その本がこの八月で六百号になる。

創刊号は一千部を刷った。戦時

筆者の最近の作品
「人々皆有通天路（ひとびとみな
天に通ずる路あり）」

赤尾 照文堂 中京区西門町通角下
 石川 古本 店 電七二一五八
 井上 上書 店 左京区中門前町一〇二
 キ 才書 店 電七八一三二
 其 極書 房 中京区西門町通北
 京 極書 房 中京区三軒下町七七一
 沢 上書 店 上京区丸の内通三軒下町一〇〇
 三 密堂書 店 下京区西門町通北
 シルヴァン書 房 下京区西門町通北
 (株) 善書 堂 上京区西門町通北
 大 善書 堂 中京区西門町通北
 竹 岡書 店 左京区西門町通北
 谷 岡書 店 左京区西門町通北
 東 方書 店 下京区西門町通北
 外 山書 店 左京区西門町通北
 萩 田書 店 上京区西門町通北
 福 井文政堂 中京区西門町通北
 藤 庫書 堂 中京区西門町通北
 文 藻書 堂 中京区西門町通北
 文 八木書 店 中京区西門町通北
 山 崎書 店 中京区西門町通北
 (株) 臨川書 店 大京区西門町通北

中だった。またたく間に三千、五千と増してサイパン、満州と支部が出来、通信局の務めもやめて専念した。収入は一躍十倍にもなつて、毎月の青山会館の古書即売に百円（今の百万円）持つて行ったが買いたいものが多くて足りない位だった。

其の頃上野に出品した屏風の般若心経の字を見られた一面識もなし柳田国男先生が、あの書風で死んだ娘の墓表を書いてくれと奥さんが来られたのはびっくりしたが、それから先生の兄上の井上通泰博士の「南天莊歌集」と云う本の題字も頼まれて書いた。その縁で拙著「伊豆の漁民」の原稿を見て戴きお蔭で陽の目を見た。それを見られた真下五一さんは私を日本ペンクラブの会員に推挙してくれたがその時一緒に出品した「椰子の実」は島崎藤村先生が見られて手紙を呉れて、あれには作者の名が書いてなかったが、これから書いて欲しい」と云うので私はこれにも驚いて麻布の狸六のお宅にお詫びに参上した。

あんな大家で誰もが知っている詩文だからと思った私の浅慮だったが教えられた、と共に何処にも眼はあるものだ、と感心した。

その頃「武士の娘」を英文で出版された杉本エツさんが麻布の拙宅を訪れて次に出す「農夫の娘」の扉にその日本文字をと頼まれたのには恐縮したが、もう一人の女

流作家の某さんは〇〇〇氏に新著の題字を書いて貰ったが気に入らぬから私に書いてくれと云うのである。幸いかどうか私はその人の名を知らなかったので頼まれるまゝに書いたらどうやら合格してその本を持って礼に来た。

あとでその不合格の人がすばらしい名筆家だと知ってこれも驚き恐縮した。がその人が中央公論社の松下英雄氏に宛てた手紙を一通持つているがその文面が古本の事で京都に縁があるので転記して見よう。

拝啓 東京は其後ますます空襲頻次なるよし御安否如何と案じ居り候、拙者丈夫なるもきい子悪しく表記観音堂へ引移り台所の世話を一切拙者つとめ疲労いたし候。

さてここへ移りて幅物何もなく物さびしく候間かねて御ゆつりしたる山梨稲川の小幅御ゆづりかつ被下度所望申上候、値段は貴方の御者にて御申つけに従ひ可申候、いかほどにてもよろしく候、

東京から小包発送困難と存じ候間東京を離る、人に御托し被下他地方から発送せしめ被下らばよろしく候べし。

最近京都へ注文して図書の購入を志し候へどもかねて八円にてもとめし人名字典が百五十円となり、七十円なりし説文詰林

が七百円となり二千円ばかり送られても二十種ばかりを得たるのみ此の調子にては復旧には三十万円以上を要し候ことと悲観いたし候、三十万円にても大半は再び入手致しかね候べし、此辺が人生学の奥妙なる点と称し候出版もいよいよ困難なるも少々書きのこしたく取りかかり居り候。

歌集の山光集以後の原稿も悉く焼失したるも、只今苦心して記憶をたどり又人にもたのみて再理につとめ居り候、福田氏が此の方を主として心配しられつゝある故御心当りの点は同氏へ御送り被下度候。

印譜は人のものも自分のものも焼失、硯も本硯のほか全焼、松林氏の呉昌硬一幅ゆつり受けたきものにて候、やむを得ずんば篆書の聯にてもよろしく候。御自愛被下度 七月九日

松下英雄様

会津八一

書翰の紙がなかった由が、頼古堂印譜をはぐして二枚（四頁）に書いてあるのも風雅と云うべきか、終戦直前のせつまつた様子が観える。

これを読まれたらお判りのようにその不合格の人は会津八一氏で世の中には目あき千人目くら千人だと云うのを知った。そして先生が如何に古書を愛されていたか

が頷かれる。私もどうもそのよう書物に対する愛着狂ではないかと思つてゐる。

尚、その頃雄山閣で出していた「書の友」の臨時増刊の支那書道史には私の原稿「随唐時代の書道」次の日本書道史に「明治・大正時代の書道」が載せられてお辱かしいが、それが最近復刊されて恥の上塗りでもあるがよくもまあ頼まれたとはいへ、徳面もなく書いたものだと今になって冷汗である。それとも四十五年も昔の事で「ちつとも進歩してないいやないか」と言われそうである。うた、今昔の感に堪えないが、私も歳をとつたものである。



交友から生まれた
筆者揮毫の題字

昭和十八年四月、戦争がはげしくなつて、東京は危いから京都に来るようにと、度々祖父から電報があり、立命館中学校の教諭に迎

えられたが、輸送の貨車が一台しかとれず、古本一切を人によつて京都に来た。

学校には田中重太郎、白川静、梅原猛先生らが居り、尚新村出、吉井勇、田中緑紅、神田喜一郎、末川博、吉沢義則、大西良慶、小泉基三先生などの知遇を得て古典や哲学、短歌など色々な分野にも興味を持った。知遇の縁のおそろかならざるを思うことしきりでもある。京都は学園、文化の都市で勉強するにも遊ぶにもよい処である。

そんな事で又古本屋行脚が始まり古書即売など毎月出掛けたが、好いものが出ていても食料危機に追われて横目で通つた時代もかなりつづいた。

でも夢二の肉筆画はがき百枚を安く買つてのちにそれで世界一周七十五日の旅をしたこともありこれも古本集めの一収穫となつた。

パリの蚤の市では一九世紀末のエハガキ二百枚を手に入れ、ドイツのゲッチンゲンではグリム記念館で世界最初の画はがきを見つけた、大英博物館では中国漢晋時代の木簡から九九の掛算の書いたものを見つけた。これも古書のおかげである。

それから漁つた古本で下鴨の家が傾きかけたので大津の田上（瀬田川畔）に土地を買い四十坪の山小屋式書庫を作った。

これからそれらをぼちぼち整理しながら遊びたいと思っているが、まだ方々から古書目録がやってくる、それに目を通す楽しみもある。六歳から八十一歳の古書の遍歴は宝生屋星の詩ではないが

聞きがき

「昭和古本販売史」(五)

教科書献呈本の販売

いただきたい。

昭和の一時、円本ブームが一段落したころユニークな古本の販売があった。教科書献呈本の販売である。これは京都の他に東京、大阪、名古屋、神戸、福岡の古本屋で主として扱われた。京都では大正末より市電敷設に伴って栄えてきた丸太町通の古本屋がその中心となった。丸太町通は市街を東西に貫く大路で、中でも東大路通りから寺町通りまでは繁華街への通り道としてとくに賑った。そして寺町通りには古くから古書店が並んでいた。京都帝大をはじめ同志社、立命館、三高や一中の学生は本を求めてここに集中した。おのずとその道中の丸太町通りにも新進の古本屋が集ることになる。このあたりの発展については脇村義太郎先生の「東西書肆街考」(岩波新書)に詳しいので参照してい

古本は近きにおいて思うもの

よしや紙の地獄にありとても
積読ものにはあるまじや、か

南無古書地獄大菩薩

筆者紹介 新日本書道会々長

京都書道連盟理事長、立命

館大学元講師

著書「伊豆の漁民」「墨の詩」

「天田愚庵」他多数

引で販売したわけである。

こうした販売は教科書が五種選定となる昭和十五年頃まで続いたがそれはすさまじいものであったという。京都でこの販売に携わった古本屋はすでにほとんど物故者となり、現在は竹岡書店の竹岡忠三郎氏のみとなった。氏は本誌第十一号に「丸太町古本屋界限今昔」と題してこの献本販売にこしふれておられるが、今すこしその頃の話を聞いてみた。

「京都では昭和三年頃『教科書聯盟会』という仲間会を作りました。この会は払い下げ献本の仕入資金の借し出しと入手した教科書の市を主催するのが主な仕事でした。私の兄の竹岡春正堂と安藤一信堂が親方となり、佐々木九如堂、堀田清風堂、藤原創造社(以上は現在も存続している)編者注)、木村進文堂、長谷川成文堂、古田書店、細井書店、高井書店など丸太町通りの十三軒の古本屋が会員でした。」

丸太町通りには他に国井書店、丸三書店、牧村書店、仙石書店があるが、それらの店は教科書は扱わなかったという。丸三書店は本

家の進文堂に遠慮したのであるうか、そのかわり参考書や辞書を中心に品揃えしたという。

「さて、私達は正月休み明けの一月五日頃にはもう全国各地に出発しておりまして。各店には縄張りがあり、私の兄は北海道、樺太まで、一信堂などは朝鮮から鴨緑江を越え、安東県までソリを走らせました。こうした買い付けは一月一杯までつづきました。二月の声を聞くと教科書市が主要都市で始まります。」主として京都、大阪、東京、名古屋で教科書市が開催された。ここでは教科書を販売する全国の古本業者が買い付けてきた教科書の不要のものを売り地元の学校用の教科書を入手するのである。京都では丸太町寺町角の銀行や仏教会館(現在の京都歴史資料館)を会場にして市が開かれた。

ところでこの商いの中で一番の苦労は、どの学校がどの教科書を採用するかという情報の入手であった。京都の公立中学校の場合は中でも一流のネーションリーダーが多く採用され、二流校などが使ったチョイスリーダーなどに比べて仕入値は格段に高かったという。

こうして入手した教科書は各学校の学年毎に各教科をセットにし、歯抜けになったところは新刊書で補って春を待つ。三月の入学者発表の頃よりいよいよ販売合戦。一般書は一時取り除いて店の棚はすべて教科書。軒には「赤旗連盟」

と愛称された紅白の幟を通りへ向けてつき出す。朝八時ともなれば学生が戸をドンドンと叩き出す。

「さあ店を開けようものなら飯食う暇もおへんではないな。にぎり飯かパンをばうばりながら一日中立ち尽した。やっと店を開めたらポケットにジャラ銭で五百円位入った。兄には内緒でしたが、これはえー小使になりましたわ」と竹岡氏は述懐する。

「そうは言うても、同じ丸太町でも地の利が大きく左右しました。」というのは献呈本の割引教科書をねらう学生は教科書の配当表を持って、丸太町通りに並ぶ古本屋のまづ端から訪ね歩く。いきおい西の端の竹岡春正堂と東の端の一信堂が売り頭となるわけである。

「この二軒が一番早よう売り切れました。そこで品切れになると学生に先回りして、丸太町通りの中ほどの古本屋へ走り仲間値で入手してくるのです。それでも品不足になってくると、兄は大阪の日本橋一丁目に二十軒ほど並ぶ同じ献本の古本屋へ補充に出かけ、夜遅くタクシードで持ち帰り、翌日には棚に並べました。」

こうした販売合戦は四月一杯までつづいて終幕となる。この二ヶ月ほどで年間売り上げの四割になったというからそのすさまじさが想像されよう。

しかし、販売合戦もやがて中学(次頁下段につづく)

店主の閑話

「がんばってます 古本屋」

目録販売・店頭販売

「夏枯れ」の暇つぶしというわけではないが、京都古書研究会々員の企業努力を互いに暴露しあうのも一興と、鴨の河原の床に席をとって大いに腹の内を割ってみた。内幕物の流行る今日、古書収集に何かお役に立つのではないかと考え、この夏青の閑談を再録してみた。

閑ばなしに加わった人々

井上書店 井上 道夫
 キクオ書店 前田 司
 其中堂 三浦 了三
 三密堂書店 森下正三郎
 シルヴァン書房 岸本 征夫
 大書堂 中村 俊一
 竹岡書店 竹岡 忠郎

古本屋で何

司会 まず最初に古本屋とはどういう商売なのか、その定義についてから入っていきたいと思います。中村さんはどうお考えですか。

中村 古本屋というのが元来の本屋のかたちで、今の新刊屋の形態が確立してきたのは大正からのことだと思います。

司会 それでは、現在、古本屋は出版物の流通ルートから外れた位置にあるんですけれど、そういう立場からすると、どういうふうにかえたらいいんでしょうか。

中村 確かに戦後はいわゆる新刊

屋の場合は、過去現在において一度でも出版されたものは皆扱うわけで、ですから新刊屋さんに本を探しに行っても、「今これこれのものが出版されております」でしまいでしょ。我々なら、古今東西何でも扱うわけで、やっぱり新刊屋とは対立するものではないですね。

山崎 このあいだ、あるお客さんから「古本というのは何回読めば古本になるんですか」と訊かれたんですが（笑）、古本ていうのは、何回も読まれてボロボロになったから古本というわけでもないし、その本が書かれたのが古いから古本というのでもないですし、商品としての「本」の性格や、その「本」というものが、「新」とか「古」とかというイメージとうまく結びつけないから、一般の人にはわかりにくいんじゃないですか。

司会 僕の考えるには、出版元の値段にこだわるといふかひきづられるのが新刊屋で、そうでなくて、需給のバランスで値段を決めるのが古本屋というのが今の経済的状況からは妥当だと思うんです。だから古いからというわけではなく、げんに皆様も出版元から本を取り寄せておられる場合もあるわけですね。

岸本 そうですね。それから、新刊屋さんは委託制で、返品ができますけど、我々は全て買切りでありますし、逆に言えば、みんな自分

の物だから自由な裁量で商売ができるのが古本屋なんじゃないかなあ。

司会 今のを総合すれば、自分の扱いたい本を洋の東西、新旧を問わず、扱いたいように扱っていくのが古本屋である、こういうふうにみればいいわけですね。

古本流通の節

司会 古本屋の何たるかがいちおうわかったところで、では版元には頼らないとすれば、どこから古本が入ってきますか。

中村 世の中に在る本は全て商品になりうると思います。

司会 そうしたらその経路というのは、どんなことがありますか。

岸本 本の入手先としたら、お客さんからの買入れ、出版社が処分する新刊書、それに古紙などの回収業者からと、同業者間の「市」などですね。

司会 「市」は、いったんお客さんから我々の市場（じょう）に出たものを扱うわけですから、前の三つが正確には入手経路になりますね。ではこんどそうやって我々の手許にきた本はどういうふうにして、店頭に並んだり、目録に載ったり、はたまた処分されるようになるのでしょうか。

前田 我々が我々の判断で、その本を再び流通させる値打ちがあるか否か、出版された物の生死を決めているのです。その節が古本屋の一番重要なものです。一つの節で何

及び実業学校の制度改革によって変化が生じてきた。

まずそれまで検定もなかった実業学校の教科書のうち普通科目が昭和七年検定制となり、昭和十三年には師範学校の修身と公民の教科書が国定となった。そして昭和十五年九月、文部省は今まで学校長に自由採択させていた中等学校（高等女学校を含む）の教科書を各教科五種の中より選択させた。そこでは「自由競争にまかせられたる為障害少なからず」ということと「物資の統制のため」とを謳っている。

さらに戦争の激化につれ、いよいよ物資の供給とくに紙の不足が高まりと共に昭和十七年、教科書の出版社は中等学校教科書株式会社に一本化されてしまった。実業学校の方も前年同様の会社に統一されている。そして昭和十八年一月文部省は戦争による物資不足を理由に教科書中等学校の教科書を国定とした。

こうして献呈本の販売合戦も軍靴の響きの高まりの中で姿を消していったのである。つかの間の平和を象徴する古本フィーバーであった。

教科書制度の変遷については岐阜大学の梶山雅史助教授（教育史）のご教示を仰ぎました。ここにお礼申し上げます。

（キクオ書店 前田 司）

でもかんでもわけられるものでもないし、また分野を限っても、目をあんまり細かくするとつまってしまうし、逆に粗くしすぎるとみんな逃してしまうことにもなり、この節をちゃんとしたものにするのが、営業努力、ということになるといえるでしょう。

司会 その「節」とは、いったい何ですか。

中村 それは時代時代のニーズです。これが営業活動のポイントだと思います。

竹岡 そのニーズですけど、古本屋だけでは何が大切かわからしませんが、だから、お客さんから本を買ったり、またお客さんに本を売ったりする中で、「何でこの本売らるんです」とか、「今この分野はどうなんです」と訊ねてみたりして、そうした話の中にニーズを見つけていくのが我々の仕事で、そうやって拾いあげてゆくかゆかないか適確に判断するのが、出版文化の最後の線を守る古本屋なんだと思います。

古本屋の眼の鍛え方

司会 ではその「節」の鍛え方というか、見分ける目の養い方というか、それはどういうふうにしてやっておられるのか、社会科学専門の外山さんいかがですか。

外山 例えていえば、マルクス経済関係の本が二三十年前ぐらいから全くといってよいほど売れなくなりましてけど、こうしたことは

目録を出していればわかることで、その意味では目録はてつと早い物指しになってます。それは、先生方の後追いをしていることになるんですが、目録を出しておられない人は、さらにその後追いということになって、その点で業者間では先を歩いてるわけですね。

飛田 僕も目録を出しているんですが、珍しい本であれば結構の値段でも複数の人が注文してくるので需要が見える利点があります。

どの分野でも数が少なく需要のある本があるはず。例えば文学の作品の初版ものなら今何がはやりだというような情報をいろいろ集め、ニオイみたいなものを嗅ぎつけて、これは売れるだろうと思う本は高い値をつけても売れるのです。本が売れるのは値段の高低だけではないです。

前田 目録で注文が重複した場合、その理由は安かったからと、もう一つ珍しい本だったからという二つがあるんですけど、珍しいから注文が殺到したと思える場合はお客さんや同業者から、なぜ珍しいか、人気があるのか情報を集めることで次に生かしています。この間の勸業館の即売会で古地図を出したら、全図みたいなのは売れず、地方のどこかわからんようなところの地図がよく売れたんで、いろいろと聞いてみると、今は地方の時代で、全体的なものより細分化されてるものの方に傾きがある、

ということがわかってたりします。**司会** 今のお三人の話にありましたように目録販売には販路拡大のみならず、需要の動向が売り上げ結果からある程度わかるという働きがあるんですね。それを基に「節」っておられるわけですね。では、店売りの場合はどうなんでしょう。



鴨川の夕風にふかれながら談論風発とどまるところを知らず

三浦 店売りの場合は、目録とちがって、お客さん同志が店先で一冊の本を取り合うということでもない限り、注文が重複するということはないです。ですから、本の足の早さと、問合せの多い本などで判断してはいいます。それでも毎日よいお客さんが来られるわけでもないし、おおよそのことですね。

森下 店売りはやはり仕入れが一番肝腎だと思います。回転の良い品揃えをして、日々の売上げ向上をはかる一方、これはという専門分野、私の場合、易・宗教書ですけど、そういう分野をしつかり持って、他に負けないところも必要だと思います。

司会 店売りの場合、流行はどうやってつかんできますか。

竹岡 私は流行というのは特に意識していません。時刻表が売れるから時刻表を買ってきても売ってたんじゃ面白くないですから、自分でこれは売れると読めたものを扱って売れたらうれいし、どこにもない自分だけの持っている本を目録に載せたい、店に並べたい、これが本当やないですか。また「本」それ自体は売り方に拘らず、同じものなんやから、どんな売り方でも同じやと思います。私の情報源としては、お客さんや研究者の方々と売り買いを通じて話していくことで情報を得ています。ちよつとしたお客さんからの買物でも、一、二時間もお喋りしてたりするので女房に、帰って来んのが遅いとよく叱られますけれど今までのお年寄の方には欠けてたことやないかなあと思います。

司会 京大前に店を持つておられる井上さん、最近の傾向なんかありますか。

井上 大学の先生の所へ買い物に行った時に、この本はいい本だと

おっしゃられるんですが、これが売れない。「いい本」というのは本当に売れにくくなってると思います。それに最近の若い先生の中には店の中へはいってきて「僕は本は買わない」って言うんですね。

司会 じゃあ、図書館とかコピーで済ませるんでしょうか。

井上 そうだと思います。「新人類」は本を読まないんです。ますますつかい時代になってきてますけど、それなりの対応をしていくべく頑張っています。

小林 今般の傾向としては、本が売れなくなってきた、特にいわゆる「いい本」、店の看板になるような本は棚にありますけど動かない。まあ、お客さんから売れそうな情報を聞いたり、それから私の店は京大生からの買い物が多いんですが、やっぱり京大生はそこそこの本を持ってまして、はやってる本も読んでますから、売れ筋がわかります。あとは、他店の目録を見たり永年の経験から、あれは高くなったとか、出にくくなったとか研究しています。これから店ですつとしているだけではダメで、見計りして待つて歩くとかしたり、即売会もやり、目録も作り、売れる本も置き、看板を揃える、こういうふうでないとイケないんじゃないですか。

司会 今までのお話は、店や目録に関連してのものでしたけれど、それ以外にも僕はあると思うんで

す。テレビを見たり、新聞雑誌とか文庫の出版状況など雑多なところからも情報収集ができるんですが、例えば市街図がよく売れるのは地方の時代ということで、つまり部分の時代であって、テレビのズームアップみたいに部分の拡大による認識が、文化的な傾向だ

あとつかめるわけです。だから、日本文学全集よりは平安期の生活の本なんかの方がよく売れるということがある。細部のもの、大工さんの書いた本みたいなものに飾を絞ることでいくということもあると思います。

大書堂さんはどうやって扱う本など判断されてますか。

中村 私の場合、仕入も売り値も自分の基準で判断してまして、他所の目録などはあてにしてません。だいたい相場のあるようなものは扱いません。それで外人さん相手としては成功しました。情報源というよりか、感覚としてお客さんの好みが変わってきます。で、意識したいは外人に向いてるといっていいでしょう。

司会 どうして外人を意識するようになったんですか。

中村 うちが御存知の通り版画を扱ってますから、日本のような木版の美しい印刷というのは他国にはなくて、外人さんには興味深いんで、たくさん来られるんです。以前は言葉がわからへんからいやがつてたんですが、自分の代にな

ってやってみようとして成功したわけです。

司会 何か最近の傾向は？

中村 傾向いんやないけれど、円高はモロにこたえましてですね。司会 萩書房の井上さんはいかがですか。

井上 最近、二回目の目録を出しましたし、以前から出店している近鉄の即売会、そうしてこれから店売りにも力を入れ、この三つから情報を入手していきたいと思えます。

「まわり」の効用

司会 岸本さんは美術、それも洋書の美術書をお扱いですが、その分野はどうですか。

岸本 以前は京都の地場産業である西陣などの染織関係へ訪問販売して、ヨーロッパの色刷りの意匠の本などを売ってまわってました。当分のヨーロッパの印刷技術というのは日本に比べてはるかに優れていて、素晴らしいものだったんで、よく売れましたし、景気もよかったですから。それでそのまま続けていてもよかったんですがまたまた古書の業界へはいつて大変面白いので、続けてます。

司会 扱っているものは同じですか。

岸本 同じです。輸入するものは、目録も発行していますが、目録じたいの効果は、訪販（まわり）より芳しくないんですけど、お客さんが増えるということがあります。

これからは感性だけでなく、ビブリオグラフィの上で勉強していきたいと思えます。

中村 「まわり」というのは京都特有のもので、他所では通じないもんなんです。

岸本 しかし最近はそのようなこともなくなってきたと思います。

司会 私のところでも、目録よりは持つて歩いたほうが早くたくさん売れるんですが、経費的にどうかというと、どうもよくわからないんですけど、前田さん、洋書は見計が多いんですか。

前田 そうです。ともかく外国から本が着いたらすぐ持つてきてくれと言われるんですが、それでまた売れるんですけど、面白くないですね。どうして目録に載せて売りたいんですか。

中村 店主のコレクター意識があるって、これだけのものを持つてるんやというのを見せたいんですね。

前田 訪販にすると先にエエものが無くなってしまう。より多くのお客さんにこれだけの本を扱ってるんだというのを見せたいし、需要のありようもみえるので見計よりまず目録でということに重点を置いています。ただ経費の面からいって、今はまだ過渡期でどちらが有利か結論が出ないんですが、司会 それでは次に話題を目録に絞ってそれぞれのお店の努力の仕方、どういう目録を作っておられ

古書研究会員店の目録最新号、そのどれもがワープロを採用しているのが特色



るか、目標の定め方などかがついていきたいと思います。まず文庫堂の飛田さん、どうですか。

目録の効用

飛田 僕の前提としては、ちゃんとした目録、つまりそれぞれの本の価値に妥当な値段がついていて、相応の内容がある目録を作ることになっています。それで扱うものは、過去現在に自分が興味をもった本をとにかく買ってきて、目録を作ってます。売れても売れなくても気にしないんです。自分が価値を認めた本を載せ、それをたまたま買ってくれた人がいたら、あ、うれいと感じるんです。

司会 目録の配列とか、見易さとか、何か工夫はしておられますか。飛田 よその目録なんかを見て配列を決めるんですが、あまり点数のない分野のものをどうならべる

かむずかしいんです。おかしな分類をすると恥しいです。見易さは、確かに大きな活字にすればいいんですが、その為にとくに経費をかけてはいません。一定のワタの中で工夫はしていますが。

司会 外山さんの目録はどうですか。

外山 目録の配列項目なんかはずうつと変えてません。編集は売れた商品をぬいて、その行間に新しく仕入れた品をはさんでゆきます。これくらいの内容（最新号は約七千点）になれば、売れ筋のパロメーターにもなり、最初バタバタと売れた所があつて、これは売れる、という予感が、号を重ねて確信に変わっていきます。一年四回出すと一つのパターンが出来上ります。今回は洋書を多数のせたところ、たくさん売れました。

司会 それは何故だと思えますか。値段ですか。

外山 ワープロを使ったりしたんで、頻る経費が安くつき、だいたい三千円位の値段で多数のせられたからだと思えます。

司会 洋古書という目録では稀観本が多いんですが、この目録にあるような一般的な洋書でもある程度の値にすれば需要があるというわけですね。

外山 それから、この目録のお蔭で洋書売りたいというお客さんからの連絡もたくさんあつて、今後もうこういう形の目録をつづけて

出してける体制ができました。司会 なるほど。今度は目録が仕入れを開拓していくわけですね。今度は美術関係の目録を出しておられる山崎さん、目録の効用はどんなのがありますか。

山崎 目録だと偶然というのかやはい、いいお客さんに巡り合えます。それも遠隔地の。

司会 目録は遠くへとばせますからね。で、その地方のいいお客さんていうのは、送る範囲を拡げていって、相対的に京都のお客さんが減っていったんですか。

山崎 いえ、はじめから関東地区や地方が多いんですけれど。

司会 一番最初の目録の送り先はどう選びましたか。

山崎 絶えず新聞記事なんかで送り先をチェックして、とりあえず鉄砲玉のように数多くどんどん新しい所へ出す。で、いいお客さんと出会えたら重要リストにまわして、それ以外はどんどん削る。でまたどんどん新しい所へ送る、というやり方です。

飛田 うちの場合はお客さんの選び方としては効率が悪いんですが（笑）、大学の職員録、美術年鑑、文学者年鑑などをもとに、目録の内容によって出すという風で、二回くらい反応がなければ名簿から外してしまいます。

外山 うちには、セレクトは常時していますが、二回とかいうことはありません。

山崎 何回で、というわけではなくて、自分の感性で、決めます（笑）

司会 今度、二冊目の目録を出して頑張っておられる萩書房さんはどういう目録を出されたのですか。

井上 第〇号に続いて第一号を出したわけで、まだ何ともいえませんが、山岳、民俗、歴史、風俗に力を入れたつもりだったんですが、その分の注文は余り成績が良くな

く、意外な所に注文がきました。お客さんが指導してくれてると

らえています。僕は一誠堂さんのような目録に載る基本的な本をはずして珍しいなお客さんが首を

ひねってもらえるような本が載っている目録を作ろうとしています。

岸本 注文が来ても本をさがし出すのが大変だと思いますけど、本の整理はどうされていますか。

井上 自分の部屋にきちんと積み上げていますから。

司会 結局この目録はどういう人へ向けて出しておられますか。

井上 近鉄の即売会や古書研の往來なんかの目録を常時控えていたものでそれをもとに送ったりしました。まだ二号ですの、新しいお客さんの開拓とまではい

いません。

司会 何部ぐらい発行しているんですか。

井上 千二百部ぐらいです。これからセレクトして充実させていくつもりです。

司会 前田さんの目録はどんな

寄稿

明治の文庫本

友吉唯夫

文庫本といえば岩波文庫を元祖のように思っている人が多いが、それもむりはない。一九八七年には六〇周年を迎えることになるからである。しかし岩波文庫がわが国で最初の文庫判廉価本でないことは、すでに本紙三十一号にも文庫堂主人飛田昭雄氏が例示されたとおりである。

明治の末期、すなわち一九一〇年（明治四十二年）に東京・神田の三教書院から袖珍（しゅうちん）文庫というのが出ていた。岩波文庫に先だつこと十七年だが、その巻頭に「袖珍文庫発刊の主旨」という一文がある。過日、京大文学部松尾尊兌教授に、ある席でお見せしたところ、少なからず興味を示された、音読された。

（編集部註・筆者はここでこの主旨の全文を紹介したが、前述の

です。

前田 洋書については、稀覯本を集めていきたい。どうしてかと言うと海外で仕入れてきますのである程度の値の物のほうが効率がいい。それと、ある部門でできるだけまとまった物を仕入れることにしています。最近、公立の図書館では予算が減らされていますけど、

ように飛田氏の一文にその前半が引用されている。ここではその部分を割愛させていただきます）

泰西にはカッセル、レグラム等云書肆があつて、どんな名著でも極めて簡素な小冊子にして極めて廉價に販賣する。屋根裏に住む貧書生でも自由にこれを購讀し、紳士も携帯に便なるを喜んで旅行でもする際は必ずこれを袖にする。

弊院が袖珍文庫を發刊するのは日本のカッセルとして立つたのである。古典と云はず輕文學といはず、雅といはず俗といはず、韻文といはず散文といはず、過去の日本が産出したる文藝作物の一切はもとより、必ずしも本邦を範圍とせず漢籍中必讀のものをも選み、必ずしも文藝を範圍とせず經世修養其他の書をも選み、いづれも二十五錢均一の袖珍本に裝釘して、弘く讀書界に提供し、以て現下の缺陷を補はむとするのである。その假名漢字の鹽梅等に留意して現代

の讀者諸彦に便した事、校訂を最嚴密にした事などはこの文庫の特色と自信する。

明治四十二年六月

三教書院主識

お気づきのように、岩波文庫末尾の「読書子に寄す」に類似した發刊聲明文である。この文を岩波茂雄はどの程度意識していたであろうか。高価本や予約出版に対する批判的立場から、出版文化を広く廉價に提供しようという主旨と、範をヨーロッパの文庫本に求めたという二点が驚くほど共通しているが、文章の格調は岩波においてやや高く、平明な点はむしろ三教書院がすぐれているのと、きわめて小形であつたが（九・五×十二・五cm）、クロス装丁の堅ろう本で、一冊二十五錢。書店主の、良書普及を願う志にもかわらず、ながくは続かなかつた。

（滋賀医科大学教授）

易いですが、また情報収集の面でもどうですか。

前田 このごろ円高で、海外から売り込みがどんどんきていますが、やはり現地へ行って現物を見てみないとどうも……。やはり自分で見つけた物は売れます。

司会 前田さんにとって目録の効用とは？

前田 目録を出すとお客さんが店の見方を変えてくれます。一度目録を出すと店の宣伝として一年は使えますからね。

山崎 目録の良さに注文の重った本をフラッとよその店で見つけたりすることがあります。いいですね。

司会 目録の傾向というのは？

前田 自分の肌合う歴史や民族を中心に扱っています。それから自分の興味がある対外交渉史的な物が多いです。

司会 岸本さんも目録を出しておられますが作成上一番気をつけていらつしやるのは何ですか。

岸本 本の状態をきちんとおのせたいですね。例えばサイズなんかもできるだけcmで示したいんですが、そうするとのせられる点数が減って、どうしても高い本中心になるんです。

ワープロで三千円ぐらいの本がのせられるなんてうらやましいですね。状態の表示にしても「極美」とあれば本当に極美の本である店もあれば、たいしたことのない「極美」の店もあるしみんなが協力してきちんと統一して目を養ってどの目録も信頼のおける表示にしたいですね。

古本屋にワープロは有力か
司会 今ワープロの話が出ましたが、皆さんの最近号の目録はみんなワープロを使っておられるようですね。これは我々としては有力な武器なのでしょう。

山崎 プリントしたものが版下として使えますから印刷代はうんと安く上がります。

外山 私のところの目録のように売れたもののさしかえだけならワープロでなくてもいいです。洋書部門は効力がありました。ただ本気でワープロで版を作ろうとすれば専任の人がいると思います。その分の人件費も計算しない。

前田 三回、四回と出してゆくとだんだん割安にはなりますね。また入力したものをいつでも好きな分野ごとに取り出せますから速報など出すのにはすごく有力です。

竹岡 ワープロのフロップピーがそのまま電算写植につながるようになってきたのでさらにきれいなものが出来たね。

外山 請求書も入力したもののからひろって作ってやろうと思いましたがそこまではうまく行きませんでした。手で書いた方が早かった(笑)。

前田 私のところでは目録に記述する項目につづけて在庫場所、本の形態などのデータが入っておりますので注文が来たとき探したすのがずいぶん楽になりました。

井上(賢) しかしワープロは多分に店主の趣味が入っているのではないですか。私は趣味と実益でやっています。

司会 それでは最後に店売の有り方についてお伺いしたいと思います。中村さんは以前私がお邪魔し

た時、うず高く所狭しと本があつて、これがいいんだとおっしゃっていました。今もそうおっしゃいますか。

店売りは一工夫

中村 いえもうそういう考えは古い。量をバァーッと出すんじやなくて今はいい物をバツバツと並べた方が売れます。ショーウィンドウやショーケース的なものにするようになるでしょう。そして倉庫を持って並んでいる物の他にもありますよとすぐに出せるようにすればよいようになります。



店の外も店のうち
わずかな空間を見事に使つて
販売する大書堂

竹岡 いや私は反対に良い物をよりたくさん並べた方がお客さんの見える量が増えていいのではないかと思

司会 お客さんの流れは私の店の場合は左側の薄暗い所を先に見

られますけどこういう一定のパターンはお客さんの習性なのではないか、それとも商品にひかれるからなのでしょうか。

飛田 やはり本の揃え方によって決まるので初めての店なら右の方へ行かれると思います(反論もあり)。

それから軟かい物(グラフィックなど)を店の外に積んでおいたら普段古本屋に来ないような人がよく買っていきます。

前田 うちでも店の外の方が売りが多いことがあります。

飛田 店の外の売り上げにも気を使つて古本屋に普段来ない人向けの本も仕入れていきます。

岸本 寺町の竹苞楼さんも外が強いでしょうね。

外山 これから店の中、外と考えるにみんな外にすればいいんです(笑)。

中村 その通り、今後店を建て直す時には往來みたいにしてほしいですね。ただ、モニターカメラを何台も置かんといけません。うちの

場合、浮世絵でも他の店と違つて外に置いてありますし気軽に外れて外人さんにも喜ばれています。いづれにしてもバァーッと見せないと売れません。

司会 私の店のショーウィンドウもよく人目をひいて成績もいいんですが見せてくれという人が増えまして値段を聞いてエエーッと言われるケースが間々あります。

中村 とにかく絶対エエカッコの、

いいインテリアの店でないとかアタシと思います。やはり、お客さんは器で物を見ますね。その点は今まで本屋はおろそかにしてきたと思います。

前田 のんびりお客さんとお話ができる場所があればいいですね。ワープロで即座に在庫リストが作成できれば商品も並べずすむことだし。

司会 とどのつまりお客さんとの交流を大切にすることが我々の糧になっているということをお忘れはいけない、これを今日の結論としてこの座談を終えたいと思います。どうもありがとうございました。

(其中堂 三浦了三 記)

古書研だより

善書堂が店舗新築

当会々員の竹山善書堂が今秋九月下旬完成予定で三階建てビルを旧店舗地に建築中。売場面積は今までの倍となりさらに二階はギャラリーとして個展・グループ展などに利用出来る。広い明るい店で多種多様な古本を置いてお客さんのニーズに答えるのがモットーと竹山勝氏は語る。

次号予定

「京古本や往来」第三十四号は十月十五日発行予定です。

京 極 書 房

電話(〇七五)三二五一五六〇

〒604 京都市中京区壬生下溝町七一
(仏光寺通西新道東入)

1	伊豆土肥史考	昭和56	三〇〇〇
2	伊豆の漁民	昭和51	三〇〇〇
3	伊豆日記 文政四年書影	昭和50	三〇〇〇
4	下田年中行事	昭和49	三〇〇〇
5	遠代百年鳥取県百傑伝	昭和45	四〇〇〇
6	鳥取市教育百年史	昭和49	二〇〇〇
7	鳥城 創立五周年記念特集号	昭和49	二〇〇〇
8	随筆瀬戸内海	昭和49	八〇〇
9	旅情瀬戸内海	昭和37	一〇〇〇
10	せとうち産業風土記	昭和52	一〇〇〇
11	四国	昭和52	一〇〇〇
12	讃岐風土記	昭和52	一〇〇〇
13	讃岐の祖	昭和31	八〇〇〇
14	高知県の歴史 新書	昭和49	七〇〇
15	土佐本山の民俗 大谷大学民俗研究会	昭和49	三〇〇〇
16	九州史研究	昭和43	六〇〇〇
17	風土生活 福岡県地誌	昭和48	八〇〇〇
18	佐賀市史 二冊 其 市役所	昭和48	八〇〇〇
19	伊万里市史 続編 其 編纂委員会	昭和46	二〇〇〇
20	基山町史 佐賀県其編纂委員会	昭和46	六〇〇〇
21	長崎談叢 12・18・20 今村省吾編	昭和25	三〇〇〇
22	長崎談叢 12・18・20	昭和25	各八〇〇
23	長崎県地理概要 40頁 森寿美術	昭和37	一〇〇〇
24	天草の歴史 本渡市教育委員会	昭和50	三〇〇〇
25	天草教育史 同振興協議会	昭和5	三〇〇〇
26	天草ペーロシ 88頁 小松原 湧	昭和37	一〇〇〇
27	鍋島藩深堀史料集成 112頁松浦史料博物館	昭和31	一〇〇〇
28	鍋島藩深堀史料集成	昭和39	五〇〇〇
29	守土市史 熊本県其市刊	昭和35	六〇〇〇
30	都城北道県社会福祉史	昭和46	三〇〇〇
31	伊豆半島の歴史 81頁 鹿兒島県史料集	昭和45	三〇〇〇
32	沖繩の産業 伊仲 皓編	昭和9	七〇〇〇
33	沖繩農村社会文化史 大井浩太郎	昭和51	三〇〇〇

石 川 古 本 店

電話(〇七五)七二一五四三九
振替 京都 七二二〇八九

〒606 京都市左京区一乗寺里ノ前町24-12

小型パンフレット特集

1	悲恋おかる勘平	東映	二〇〇〇
2	赤穂浪士	東映	二〇〇〇
3	源義経	東映	二〇〇〇
4	人斬り彦吉	東映	一〇〇〇
5	嵐が丘	東映	一〇〇〇
6	ナパロンの要塞	東映	一〇〇〇
7	パリの恋人	東映	一〇〇〇
8	昼さがりの情事	東映	一〇〇〇
9	ロマーの休日	東映	一〇〇〇
10	パンと恋と夢	東映	一〇〇〇
11	恋多き女	東映	一〇〇〇
12	世界を彼の腕に	東映	一〇〇〇
13	冒険	東映	一〇〇〇
14	秘めたる情事	東映	一〇〇〇
15	ケイン号の叛乱	東映	一〇〇〇
16	サハラ戦車隊	東映	一〇〇〇
17	脅迫者	東映	一〇〇〇
18	聖女	東映	一〇〇〇
19	ハムレット	東映	一〇〇〇
20	白人部隊撃滅	東映	一〇〇〇
21	愛情の瞬間	東映	一〇〇〇
22	プロレタリア	東映	一〇〇〇
23	チャタレイ夫人の恋人	東映	一〇〇〇
24	エジプト人	東映	一〇〇〇
25	明日なき愛情	東映	一〇〇〇
26	夢去りぬ	東映	一〇〇〇
27	炎と剣	東映	一〇〇〇
28	どてら腹に穴をあけろ	東映	一〇〇〇
29	青い珊瑚礁	東映	一〇〇〇
30	オセロ	東映	一〇〇〇
31	大いなる希望	東映	一〇〇〇
32	青い麦	東映	一〇〇〇
33	安城の影	東映	一〇〇〇

井 上 書 店

電話(〇七五)七八一三三五一
振替 京都 七八二四九七〒606 京都市左京区今出川通百万遍東入
(京都大学前)

1	南蠻廣記 新村出 正・続 正のみ再版	大14	八〇〇〇
2	南方記 新村出 明治書房	昭和18	三〇〇〇
3	南蛮更紗 新村出 初版 改造社	大13	三〇〇〇
4	蜀雅堂談圃(支那古陶窯録) 小森忽	大12	三〇〇〇
5	鑑定秘訣 陶磁器考 上村獨笑	昭和12	三〇〇〇
6	書家と作品 内田巖	昭和23	三〇〇〇
7	日本美術史(美術叢書)	大5	五〇〇〇
8	ヨーロッパ芸術 井島勉	昭和2	一〇〇〇
9	ギリシャの芸術 大隅為三	昭和2	一〇〇〇
10	エジプトの芸術 一氏義良	昭和2	一〇〇〇
11	近代英国の諸断面 石田憲次 星野書店	昭和19	二〇〇〇
12	西欧市民意識の形成 増田四郎 春秋社	昭和24	二〇〇〇
13	ヨーロッパ成立期の研究 井上智勇	昭和17	二〇〇〇
14	希臘主義の東漸 田中実知太郎 創元社	昭和17	二〇〇〇
15	ギリシア人の智慧 田中美知太郎 生活社	昭和22	一〇〇〇
16	ソクラテスの道 出隆 生活社	昭和22	一〇〇〇
17	ギリシヤ神話 高津春繁訳 筑摩	昭和22	一〇〇〇
18	マカートニー奉使記 加藤憲市訳 岩波	昭和18	三〇〇〇
19	易と中庸の研究 武内義雄 岩波	昭和18	三〇〇〇
20	日本古代家族 日本学術叢書 藤間生大	昭和23	四〇〇〇
21	古代日本の信仰と社会 原田敏明	昭和22	二〇〇〇
22	日本古代文化の諸問題 小林行雄	昭和22	二〇〇〇
23	日本古代文化序説 大場磐雄	昭和18	二〇〇〇
24	日本石器時代文化 八幡一郎 鎌倉書房	昭和22	二〇〇〇
25	民族学論攷 岡田太郎 史苑叢書I	昭和22	二〇〇〇
26	考古学(現代哲学全集) 建設社 大場磐雄	昭和21	二〇〇〇
27	情操の歴史 岡崎義信 文化書林	昭和21	一〇〇〇
28	言葉とその文化 西尾實 岩波書店	昭和22	一〇〇〇
29	文化人類学 西村真次 早大出版部	大13	三〇〇〇
30	東洋文庫十五年史	昭和14	三〇〇〇
31	石造美術と京都(京都叢書) 川勝政太郎	昭和21	一〇〇〇
32	飛騨の女たち(女性叢書) 江馬三枝子	昭和17	一〇〇〇
33	和洋菓子作り方 秋穂敬・東佐興	昭和2	一〇〇〇

〒530 大阪市北区芝田一丁目六番二号
阪急古書のまち

臨川書店 大阪店

電話(〇六) 三七四一三〇〇
振替 京都 七七八〇〇番

営業時間 午前十一時—午後八時 定休日 毎週水曜日

1 幸若舞曲集(複製)	笹野堅 二冊	昭49	一、八〇〇
2 謡曲作者の研究	小林静雄	昭47	一、〇〇〇
3 能と金春	広瀬瑞弘	昭44	三、〇〇〇
4 能の見方謡の聞き方	池内信嘉	昭46	四、〇〇〇
5 国劇史概観	高野辰之	昭9	二、〇〇〇
6 近世日本演劇の源流	原田享一	昭3	四、〇〇〇
7 芝居絵本蒐蔵之記	波井清	昭11	四、〇〇〇
8 市川左団次 歌舞伎紀行	少痛本	昭4	一、八〇〇
9 七世市川団藏	市川九藏	昭17	四、〇〇〇
10 続団菊以後	伊原青々園	昭12	二、〇〇〇
11 守田勘彌	木村錦花	昭18	四、〇〇〇
12 芝居さんげ	小嶋二朗	昭43	一、〇〇〇
13 芝居五十年	園田民雄	昭17	一、〇〇〇
14 浄瑠璃作者の研究	木谷運吟	昭49	六、〇〇〇
15 文楽今昔譚	田辺高雄	昭3	三、〇〇〇
16 江戸時代之音楽	竹内道敬編	昭42	三、〇〇〇
17 河東節二百五十年	高須梅溪	明44	四、〇〇〇
18 滑稽趣味の研究	植村秀一郎編	昭40	二、〇〇〇
19 落語系図	布施昌一	昭45	二、〇〇〇
20 日本人の笑いと落語	平凡社	昭46	二、八〇〇
21 奇席(日本の古典芸能9)	宮尾重男	昭18	二、〇〇〇
22 近世笑話文学	上田萬年校訂	昭15	二、〇〇〇
23 時代口はなし	林美一校訂	昭31	一、五〇〇
24 未刊江戸小咄本集	花咲一男編	昭33	四、〇〇〇
25 未翻刻宝暦江戸小説三種	小柴直一編	昭39	四、〇〇〇
26 江戸小咄研究	林美一校訂	昭33	三、〇〇〇
27 絵入江戸小咄本	尾崎久弥	昭6	二、五〇〇
28 小咄選集	宮川曼魚編	昭3	四、〇〇〇
29 小咄十種	早川純三郎編	昭6	二、〇〇〇
30 小咄十種	宮尾しげを	昭27	一、八〇〇
31 好色江戸小咄集			

〒600 京都市下京区寺町通り五条上ル

藤井文政堂

電話(〇七五) 三五一九三六三
振替 大阪 七七一五

1 石鉄山前上寺蔵主権現三尊 摺仏	総寸150×48	一幅	七、五〇〇
2 善宝寺龍神二神摺仏	総寸150×36	一幅	四、五〇〇
3 南都大佛寺摺佛	総寸80×30	一幅	二、〇〇〇
4 南無八大王寺天形星牛頭天王 摺佛	総寸140×37	一幅	四、〇〇〇
5 豊川吒枳尼真天 彩色	総寸147×36	一幅	五、〇〇〇
6 和合大福神摺仏	総寸68×23	一幅	二、〇〇〇
7 三峯十一面観音摺仏	総寸170×39	一幅	六、〇〇〇
8 神祇服紀令	江戸初期古写本		一、〇〇〇
9 以呂波贅喩点鈔	写本		二、〇〇〇
10 磨光鏡鏡口授秘伝記	大圓蘭若書写		四、〇〇〇
11 立正安国論寶鑑	日辰選	大本	三、〇〇〇
12 首書六物図	祖淳述	大本四冊	二、〇〇〇
13 佛制比丘六物図輯釈	寛永二十一年刊	大本	二、〇〇〇
14 佛説善惡因果經	台密 木版		二、〇〇〇
15 十八道記	声明譜付		二、〇〇〇
16 新板御影供表白	星川豊彦	昭25	六、〇〇〇
17 羽黒修験道秘録	紫田親趾法	昭19	二、〇〇〇
18 紫田家庭健康術	根本圓通	昭11	二、〇〇〇
19 人生の道 名前の附け方	内紫御風	昭8	二、〇〇〇
20 霊蔵洞物語	福山月宗	昭5	二、〇〇〇
21 平易に大品般若経	宮辺富次郎	昭12	二、〇〇〇
22 本門佛立講信より行まで	(国訳) 宮辺富次郎	大9	二、〇〇〇
23 圓悟必要・禅門宝訓他	(国訳) 禅宗双書	大10	二、〇〇〇
24 枯崖和尚漫録・山庵雜錄他	(国訳) 禅宗双書	大15	二、〇〇〇
25 竺仙和尚語録・一山国師語録	(国訳) 禅宗双書	大15	二、〇〇〇
26 元庵和尚語録・佛光国師語録	(国訳) 禅宗双書	大15	二、〇〇〇
27 無心といふこと	鈴木大拙	昭14	二、〇〇〇
28 禅門法語集	湖海玄昌	昭18	二、〇〇〇
29 道元禅師と行	秋山範二	昭4	一、五〇〇
30 禅の妙味	禅話双書刊行会	昭18	二、〇〇〇
31 塗毒鼓	藤田玄路	昭25	二、〇〇〇
32 大徳寺名宝集	便利堂	昭8	二、〇〇〇
33 成田山名所図会	石倉重継	昭36	二、〇〇〇

この秋! リフレッシュ・オープン

☆ 2F ギャラリーのご案内 ☆
只今ご使用申し込み受付中!
(絵画・陶器等、美術品の展示に最適です)

〒602 京・上京区河原町通今出川上る

藤井文政堂

TEL 256-1735・231-7711

文藻堂

〒604 京都市中京区新烏丸通竹屋町上ル

電話(05)二二二-一九一四
振替 京都 八一六一五

1 高浜虚子

短冊幅

高浜年尾箱書

青地金砂子極美短冊

萩むらの円かあるや露の朝

絹台貼二段装

一〇〇,〇〇〇円



2

大谷鏡石賛

柑園画

春秋画賛幅

彩色

共箱(昭和五年)

紙表装

本来八三幅対ナルモ「桃画賛」幅ヲ欠ク 美品 双幅 七八,〇〇〇円



(梅画賛) 田楽を待つ間一瓢腰よらす (55×21雙)

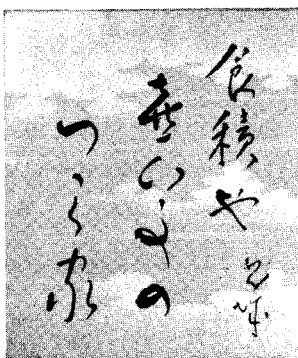


(柳画賛) 穂芒や川へ崩えたる崖の土

3 村上鬼城

小色紙(18×21櫃)

一枚 二八,〇〇〇円



食積や喜び事のつくく家

5 原石鼎

短冊

鳴や柚葉が物の置所



極美一枚

二〇,〇〇〇円

6 松瀬青々

短冊

蓬葉へ使の葉や海の上



極美一枚

一五,〇〇〇円

7 岩木麗陽俳句半折

短冊

篠を這ひ杉にまっはる藤の花

8 野田別天楼

短冊

四年なる魚の光りつ秋の空

9 川西和露

短冊

蜜龍頭上にあらししまひける

10 角田竹冷

短冊

竹林や雨来りそ、ぎ童話く

飯巻

一〇,〇〇〇円

極美

七,〇〇〇円

極美

四,〇〇〇円

極美

五,〇〇〇円

鈴鹿野風呂 鮎の句幅 共箱
紙二段装 薄茶料紙 四五,〇〇〇円

常滑の巖をつゝきて吉野鮎

〒606 京都市左京区北白川久保田町64の5

とやま
社会科学系
外山書店
学術書専門電話(〇七五) 七〇一六六二七
振替 京都 九一六三八四

29	仙伝	明40	一、五〇〇
28	仙教之精髄	昭2	一、〇〇〇
27	国民思想叢書 仙教篇上	昭5	二、〇〇〇
26	布教書 第一輯	昭2	二、〇〇〇
25	延命地蔵經のお話	昭54	三、〇〇〇
24	三宅酒壺洞	昭7	一、〇〇〇
23	小林正盛	昭23	一、〇〇〇
22	大谷派吉崎別院誌要(13P)	昭14	一、〇〇〇
21	第6輯 寺院仏堂教会統計	昭14	一、〇〇〇
20	宗教制度調査資料(57P)	昭15	四、五〇〇
19	宗教団体関係法規分類要覧	昭16	一、〇〇〇
18	創(昭50) 日中友好仏教協会	昭15	一、〇〇〇
17	創(昭50) 日中友好仏教協会	昭15	一、〇〇〇
16	創(昭50) 日中友好仏教協会	昭15	一、〇〇〇
15	創(昭50) 日中友好仏教協会	昭15	一、〇〇〇
14	創(昭50) 日中友好仏教協会	昭15	一、〇〇〇
13	創(昭50) 日中友好仏教協会	昭15	一、〇〇〇
12	創(昭50) 日中友好仏教協会	昭15	一、〇〇〇
11	創(昭50) 日中友好仏教協会	昭15	一、〇〇〇
10	創(昭50) 日中友好仏教協会	昭15	一、〇〇〇
9	創(昭50) 日中友好仏教協会	昭15	一、〇〇〇
8	創(昭50) 日中友好仏教協会	昭15	一、〇〇〇
7	創(昭50) 日中友好仏教協会	昭15	一、〇〇〇
6	創(昭50) 日中友好仏教協会	昭15	一、〇〇〇
5	創(昭50) 日中友好仏教協会	昭15	一、〇〇〇
4	創(昭50) 日中友好仏教協会	昭15	一、〇〇〇
3	創(昭50) 日中友好仏教協会	昭15	一、〇〇〇
2	創(昭50) 日中友好仏教協会	昭15	一、〇〇〇
1	創(昭50) 日中友好仏教協会	昭15	一、〇〇〇

30	日本古代の国家と仏教	昭54	二、〇〇〇
31	村落祭祀と国家統制	昭57	四、〇〇〇
32	サンガラクシタ・ダルマパーラ	昭38	二、五〇〇
33	日本の仏教美術	昭56	三、〇〇〇
34	大國主神御伝記	昭15	二、〇〇〇
35	伊勢神宮の建築と歴史	昭52	七、〇〇〇
36	皇陵附一 陵墓の形式	昭14	一、五〇〇
37	三輪叢書	昭3	八、〇〇〇
38	檀原の遠祖	昭15	四、〇〇〇
39	賀茂進進維記	昭15	三、〇〇〇
40	官幣中社諏訪神社資料上下	昭15	六、〇〇〇
41	国幣中社射水神社志	昭15	二、〇〇〇
42	塩亀神社の塩亀桜(13P)	昭15	二、〇〇〇
43	伊曾乃神社復興回顧十二年	昭14	二、〇〇〇
44	伊夜日子神社祭神の研究	昭16	四、〇〇〇
45	官幣大社鹿兒島神社(32P)	昭15	一、五〇〇
46	鹿島神社宮誌	昭8	六、〇〇〇
47	大庭御厨の研究(33P)	昭6	一、五〇〇
48	神道信仰要素序論	昭37	一、〇〇〇
49	神宮要綱	昭3	八、〇〇〇
50	神宮便覧	昭14	一、〇〇〇
51	大阪府神社名鑑	昭46	一、〇〇〇
52	増訂・切支丹史の研究	昭46	一、〇〇〇
53	薩藩切支丹史料集成	昭46	一、〇〇〇
54	関西学院創立75周年記念特集神学研究13	昭39	二、五〇〇
55	古典古代における伝承と伝記秀村欣二他	昭50	二、〇〇〇
56	日本の神学	昭50	二、〇〇〇
57	八十一年前の熊本バンドを懐く(32P)	昭5	八〇〇
58	イエスの宗教と基督教	昭5	一、〇〇〇
59	キリスト教の弁証	昭23	三、〇〇〇
60	八良尾のセミナリヨ(片岡千鶴子)	昭45	二、〇〇〇
61	マルクス主義と基督教	昭22	一、〇〇〇
62	レアネド・羅馬教会論	昭19	九、〇〇〇

63	羅馬法王史	明35	四、〇〇〇
64	ロプス・イエス時代の日常生活全3冊	明	六、〇〇〇
65	マルミオン・キリストの玄義を生く	昭45	四、五〇〇
66	ミラー・パロウス・死海写本	昭36	二、五〇〇
67	イエス伝	昭7	一、〇〇〇
68	ルナン・耶蘇	昭15	三、八〇〇
69	ルナン・幼年時代の思い出	昭15	四、〇〇〇
70	聖アウグスティヌスの回心	昭24	三、八〇〇
71	人生問題と聖アウグスティヌスの回心	昭36	二、〇〇〇
72	キエルケゴール・イエスの招き	昭23	一、八〇〇
73	フラマリオン・死とその神秘	昭14	二、〇〇〇
74	ワイレ・キリスト教と現代	昭30	二、〇〇〇
75	ブライデラー・宗教の本質と各宗の特質	大13	五、〇〇〇
76	カーヴァ・エーディット・シエタイン	昭43	二、〇〇〇
77	キエルケゴール・説教集	昭33	一、五〇〇
78	アウグスティヌス「告白」講義	昭21	一、〇〇〇
79	アウグスティヌス・ソリロキア・浄福の生	昭24	二、五〇〇
80	レーヴィット・知識・信仰・懷疑	昭34	二、五〇〇
81	ヴェスレイ・信仰日誌	昭23	二、〇〇〇
82	アラン・信仰についての談話	昭17	一、〇〇〇
83	ネラン・アンチオケのイグナチオ書簡	昭35	二、八〇〇
84	聖フランシスコ・サヴィエルの生涯	昭23	八〇〇
85	マルキシズムと宗教	昭5	四、五〇〇
86	予言者の研究	昭23	二、五〇〇

- | | | | |
|--|-----------|---------|--|
| 1. 日本仏教美術の源流 奈良国立博物館編 | 1978 | ¥5,800 | 千
600

京
都
市
下
京
区
仏
光
寺
通
東
洞
院
角

シルヴァン書房
振替 電話 (〇七五) 三四一七八七九三
京 都 一七九三 |
| 2. 浮世絵概観 井上和雄解説 浮世絵芸術社 大鳳書房 | 昭8 | ¥3,000 | |
| 3. 美の構造 金原省吾 青磁社 初版 | 昭17 | ¥3,800 | |
| 4. 落款と箱書の栞 荒木矩著 芸艸堂 | 昭4 | ¥8,500 | |
| 5. 英国近世 唯美主義の研究 本間久雄 東京堂 480部限定番号入 | 昭9 | ¥70,000 | |
| 6. 木版端午玩具集 西澤笛畝 再版 | | ¥33,000 | |
| 7. 香雪斎蔵品展覧図録 藤田男爵家 | 昭9 | ¥25,000 | |
| 8. 長春閣蔵品展覧図録 神戸川崎男爵家蔵品目録 | 昭11 | ¥15,000 | |
| 9. 浅見家入札目録 | 昭3 | ¥8,500 | |
| 10. 川合玉堂 児玉希望著 美術往来社 | 昭11 | ¥3,800 | |
| 11. 川合玉堂 難波田専太郎著 美術探求社 | 昭30 | ¥5,800 | |
| 12. 川崎男爵家蔵品入札目録 | 昭3 | ¥18,000 | |
| 13. 伊太利案内 柏熊達生 改造社 | 昭15 | ¥1,200 | |
| 14. 梅原猛著作集 集英社 全20冊 | | ¥25,000 | |
| 15. 日本の酒の歴史 協和醸造25周年記念刊 | 昭51 | ¥4,800 | |
| 16. 東北詩集 桜井増雄著 限定300部番号入 | 昭48 | ¥2,000 | |
| 17. 目で見える本の歴史 庄治浅水 吉村善太郎共著 署名入 出版ニュース刊 初版 | 昭59 | ¥8,000 | |
| 18. 日本写真大サロン | 昭2 | ¥3,800 | |
| 19. 美術教育新撰裁縫の栞 上・中・下 元帙入 チリメン表紙 3冊 | | | ¥21,000 |
| 20. (独) 古紙幣 A. ビック著 203頁 238図 8VO. ハーレンバーク共刊 | 1980 | ¥3,000 | |
| 21. (独) エロチックな蔵書票 E & P クロンハウゼン 188頁 200図 ガラ刊 8vo. | | ¥2,000 | |
| 22. (仏) チベットの芸術 L. JISL 他著 45頁文 川図色刷多 チェコ・アルチア版 | 1958 | ¥4,800 | |
| 23. (英) インド・パキスタンの服飾 S.N. ダール著 138+4色図 244頁 ボンベイ | 1982 | ¥10,000 | |
| 24. (英) インド・パキスタン美術工芸五千年 S. スワラブ著 246図 5色刷272頁 初版 ボンベイ | 1968 | ¥10,000 | |
| 25. (印) ガーバル絵画 M. ラル著 110頁 31色マット貼り 31×24 ボンベイ | 1968 | ¥4,000 | |
| 26. (英) クレー 人と作品 サン ラザロ著 初版 | | ¥2,500 | |
| 27. (米) 米国の捺染布 1600~1900 F.H. Pettit 著 200図 60色図 ハステイングハウス刊 | 1970 | ¥6,000 | |
| 28. (独) 壁掛・ヴァントテビッヘ W.J.B. フォーマン選 プラズコーヴァ文 64文 75図版色多し
チェコスロヴァキア収蔵 アルチア刊 | 1957 | ¥7,000 | |
| 29. (独) バーデンとファルツ州に於ける中世のガラス絵 R. ベックスマン著 323頁文 14色図+122図版
399図版他 挿図多 32.5×25 ベルリン | 1979 | ¥30,000 | |
| 30. (独) ケルン大聖堂の中世のステンドグラス H.Rode 著 227頁文+268図版 633図 32.5×25 ベルリン | 1974 | ¥30,000 | |
| 31. (独) バイエرن国立美術館蔵硝子絵 J. Schinnerer 著 96頁文+40図版 32.5×24 バイエرن国美刊 | 1906 | ¥35,000 | |
| 32. (独) フランスの教会の光と色 (ステンドガラス) E.v. Witzleben 著 262頁文+41色図+90白黒図
31.5×22.5 J.Hanneschlaeger 刊 | 1976 | ¥20,000 | |
| 33. (仏) ヴイスコンチのタロットカード G. マンデル著 LES TAROTS DES VISCONTI 色図, ケース入
Vilo 刊 | 1974 | ¥12,000 | |
| 34. (英) アールデコと諸型態 アンティックコレクタークラブ刊 図版多数 | 1978 | ¥23,000 | |
| 35. 芸術、芸術家百科辞典 ファイドン版 704頁 挿図、色版多数 27.5×22 | 1978 | ¥7,500 | |
| 36. (独) 20世紀の芸術と技術展カタログ 1980.6.2-8.10. 280頁、総図 17色図 23×23 ミュンヘン | 1980 | ¥5,000 | |
| 37. (英) ドガ 人生、時代、そして作品 R. マクミュレン著 517頁 4to. 挿図多数 London 1985 | | ¥7,500 | |
| 38. Gasset, J. O 著 MEDITATIONEN ÜBER DIE JAGD J.E. Rindinger 画 100頁 DVA 刊 美本 1966 | | ¥4,500 | |
| 39. トリスタンとイゾルデ Bedier, Joseph 著 DER ROMAN VON ISOIDE F. Kredel 112頁 色挿画
限定500 番号入 オランダ紙使用 Insel 刊 ケース入 美本 | 1966 | ¥18,000 | |
| 40. ルーシーゲルモス Mörike, Eduard 著 LUCIE. GELMOTH Ars Librorum 刊 挿図多 美本 ケース入
650部番号入 オランダ紙使用 | 1966 | ¥ | |
| 41. (伊) イタリアのステンドガラス G. Marchini 著 57頁文+80色図版 31×25 Electa 刊 | 1956 | ¥35,000 | |
| 42. (英) 英国の写本彩師 O.E. Sannders 著 ENGLISH ILLUMINATION 2巻 132頁文+129図版
31×24 パンテオンモリ イタリアー | 1928 1983 | ¥90,000 | |
| 43. (英) 切刻肖像板 F.A. Greenhill 著 INCISED EFFIGIAL SLABS 2巻 431+224頁 挿図多数
28.5×22.5 Faber & Faber 刊 初版 | 1976 | ¥20,000 | |

美術書 サマーバーゲンセール

■期間 7月15日～8月5日
■会場 弊店2階特設コーナー

美術洋書・和書・雑誌バックナンバー・資料・
デザイン書等掘り出し物連日追加致します。

電話 (〇七五) 四九一—三〇七

〒603 京都市北区小山下内河原町六三

1	聖女高等女学校沿革(新潟)	昭2	二、〇〇〇
2	学校一覽 神戸市立第三神港商業学校	昭13	三、〇〇〇
3	学位録 文部省学務局 明治25年5月 昭和9年3月	昭29	一、〇〇〇
4	新教育指針 第一分冊／第四分冊文部省	昭22	三、〇〇〇
5	平安学園百年のあゆみ 平安学園(京都)	昭51	五、〇〇〇
6	炎暑克服 京第一高女	昭12	四、〇〇〇
7	職員録 京都大学	昭22	三、〇〇〇
8	スミス氏初等代数学	昭30	六、〇〇〇
9	初等科算数一 教師用 文部省	昭17	三、五〇〇
10	数学思想史 一 教師用 文部省	昭18	三、〇〇〇
11	小学校用日本地理2種 第二種 河野伊三郎1記 野野1記	昭27	五、〇〇〇
12	小 新撰修身書 七、八、九 平井義直編	昭16	六、〇〇〇
13	小 日本修身書卷一 高等女学 生徒用 横辺政吉 検定済	昭27	二、〇〇〇
14	女子修身訓 卷一、二、三 沢柳政太郎	大2	六、〇〇〇
15	師範教育 卷一 上下 文部省	昭19	六、〇〇〇
16	初等科国史 上巻 文部省	昭18	三、〇〇〇
17	高等小学国史 上巻 文部省	昭13	三、〇〇〇
18	尋常小学国史 下巻 文部省	昭10	三、〇〇〇
19	高等小学読本 卷二 文部省	昭11	二、〇〇〇
20	国語初歩 卷六 文部省	昭12	三、〇〇〇
21	ヨミカタ 教師用 文部省	昭16	四、〇〇〇
22	小 新撰山城地誌 一 遠藤茂平編	明15	二、〇〇〇
23	新撰山城地誌 亨 山田行元編	明15	二、〇〇〇
24	改訂日本歴史 前編第二 金港堂版 改訂第二	明27	三、〇〇〇
25	小学理科新書 甲種卷二、四 学海指針社	明26	四、〇〇〇
26	改訂士氏物理小学上、中、下 芦葉六郎訳	明16	三、〇〇〇
27	小学物理啓蒙 卷中 田中竹次郎	明16	三、〇〇〇
28	改正 小動物問答 家中原政紀 末尾書あり	明13	五、〇〇〇
29	小学読本 全 義廉編	明9	二、五〇〇
30	小学理科 生徒用 卷二 西村正三郎	昭27	二、〇〇〇
31	感激の国史上、下 小酒井儀三	昭17	六、〇〇〇
32	小学校社会科 学海指針 文部省 中学校高等一般学習指導法	昭23	三、〇〇〇
33	小学校社会科 学海指針 文部省 中学校高等一般学習指導法	昭25	八、〇〇〇

72	定中中等地理一	前・中	文部省	
71	中等生物二		文部省	昭21
70	中等生物一	前・中・後	文部省	昭21
69	中等物象三	前・中・後	文部省	昭21
68	中等物象二	前・中・後	文部省	昭21
67	火	納富重雄		昭2
66	水	納富重雄		昭2
65	古植物	藁麦 松永藤三編	孔版	昭34
64	日本帝國協和会指導要綱案	大島延次郎		昭30
63	滿洲帝國協和会指導要綱案	山口重次		昭30
62	未解放部落の美態	調査部落問題科における調査 長岡義典・山田源一郎・河野清一	文部省	昭16
61	興行映画調査(Ⅳ)	長岡義典・山田源一郎・河野清一	文部省	昭14
60	民俗學上より見たる富士松林	三井博		昭11
59	三光 第四号	松山高校三光榮		昭6
58	人文科学研究所紀要18号	明治・大正思想の研究 立倉幹雄・大学人文研究	文部省	昭22
57	家庭 中学校第二学年	卷一	文部省	昭22
56	高等小学日本歴史	卷一	文部省	昭22
55	高等國語二上・下		文部省	昭26
54	尋常小学國史	上・下	文部省	昭2
53	學位録 女學校樓同窓会會員名簿	昭和12・13・14・15		昭15
52	實踐女學校樓同窓会會員名簿	昭和4・7・9・10		昭14
51	大阪天王寺中学校同窓会誌(名簿)	群馬県立前橋市同窓会		昭10
50	同窓会會員名簿一十二二三	浪速高等学校		昭7
49	浪速高等学校便覽	浪速高等学校		昭7
48	成績評價の心理学的研究	南満鉄教育研		昭9
47	ブラウの実験研究報告第二集	全日本中学校長会		昭26
46	グレンホルム	奈良高師付屬中高等教育研		昭24
45	會報 六号記念号	京都府立桃山高女		昭24
44	教育研究二二三号	京都府教育局		昭24
43	中學學校生徒指導	文部省初等中等教育局		昭24
42	新工業教科書 卷一核定簿	其名稱編集室		昭28
41	東京農業學校 卒業生名簿	其名稱編集室		昭28
40	東京農工大學 卒徒必携	表紙一部破れ		昭28
39	友朋 復刊一號一六号	教職員文化室 教育学研究會 四冊 シミアリ		昭24
38	創立九十年記念誌	其記念事業委		昭34
37	會誌 拾号	大阪府立住吉中学校同窓会		昭11
36	坂東太郎	八十年前 前橋高校		昭34
35	学友會誌	二十五号二十八号	京都帝大	昭25
34	第四期教育長等講習研究集録	京都帝大		昭25

73	暫定	中等地理一	前・中後	文部省	昭21
74	暫定	中等地理二	前・中	文部省	昭21
75	暫定	中等地理四	前後	文部省	昭21
76	暫定	中等歴史一	前後	文部省	昭21
77	暫定	中等歴史二	前後	文部省	昭21
78		中等國語一	上下	改訂版 検定済 三省堂	昭27
79		女体開闢	岡本かの子	初版カバ	昭18
80		蟲寿抄	室生犀星	初版初いたみ	昭17
81		後の多情多恨	閑莊一郎	再版	大2
82		白猫	石川淳	初版	昭22
83		風知草	宮本百合子	初版	昭22
84		人間失格	太宰治	初版カバ	昭22
85		骨董	露伴	初版函	昭21
86		假裝人物	徳田秋声	初版	昭23
87		愛撫	梶井基次郎	初版	昭23
88		白痴	坂口安吾	初版	昭22
89		逃げたい心	坂口安吾	初版	昭22
90		青鬼の種を洗ふ女	流れる	初版	昭22
91		躍動	舟橋聖一	初版	昭21
92		創作雌伏	濱田糸術	初版 廃棄印	昭6
93		津軽	太宰治	初版	昭22
94		洋車の大將	尾崎士郎	初版	昭17
95		虎彦龍声	坪田龍治	三刷	昭15
96		帰郷の聲	新渡部稲造	初版 カバ・イタミ	明40
97		アベマリア	谷崎潤一郎	初版カバ	昭22
98		遺稿詩集	萩原朔太郎詩集V		昭22
99		燃ゆる類	堀辰雄	初版カバ	昭22
100		永遠の郷愁	深尾須磨子	初版カバ	昭21
101		命あるの文字	芹沢光治良	初版	昭21
102		可能性の文学	織田作之助	再版	昭22
103		その人を知らず	三好十郎	初版	昭23
104		吹雪物語	坂口安吾	初版カバ	昭22
105		大海辺	小野十三郎詩集	初版	昭22
106		創作魔禅	後藤亮次郎	初版	昭22
107		肉体の門	田村泰次郎	初版	昭22
108		年刊創作傑作集 第一輯	日本文芸家協会		昭22
109		創作代表選集Ⅰ・Ⅱ	日本文芸家協会		昭22
110		朝鮮 野談、随筆、伝説	森川清人		昭19

其 中 堂

電話(〇七五)二二二二九七二
振替 京都 二一五 三三八

〒604 京都市中京区寺町通三条北

1	仏像の起源	高田修	昭42	一六〇〇〇
2	印度仏教史	馬田行啓	昭2	四〇〇〇
3	仏教汎論	宇井伯寿	昭51	八〇〇〇
4	俱舍論講話	斎藤唯信	大9	三〇〇〇
5	仏教教団の研究	芳村修基	昭43	三〇〇〇
6	インド文典	沢英二	昭35	一五〇〇〇
7	仏教思想研究	宇井伯寿	昭18	六〇〇〇
8	解脱と救済	楠正弘	昭58	二〇〇〇〇
9	シツタルタ	三井光弥	大14	二〇〇〇〇
10	アポロン佛	山口益	昭33	一〇〇〇〇
11	動仏と静仏	山口益	昭28	八〇〇〇
12	心清浄の道	山口益	昭27	八〇〇〇
13	仏教文学物語	深浦正文	昭30	三〇〇〇〇
14	弘法大師伝	蓮生観善	昭6	七〇〇〇〇
15	鎮宅靈符神	金華山人	昭45	七〇〇〇〇
16	禪と東洋思想の諸問題	福島俊翁	昭45	七〇〇〇〇
17	禪と日本文化の諸問題	萩須純道	昭44	八〇〇〇〇
18	臨川夜話	釈宗活	昭55	三〇〇〇〇
19	墨海久松真一の書	燈影舎	昭57	三〇〇〇〇
20	沢庵和尚伝	京都大安	昭32	一〇〇〇〇
21	禅思想史研究(一)盤珪禅	鈴木大拙	昭20	一〇〇〇〇
22	不生禅 盤珪禅師語録の色説	高野毅	昭39	一〇〇〇〇
23	日曜学校舞踊集	岡本義雄	昭5	五〇〇〇
24	壬生大念仏	田中緑紅	昭18	一〇〇〇〇
25	弘法大師の成仏思想	森寛紹	昭16	一〇〇〇〇
26	日本のなるもの	紀平正美	昭16	五〇〇〇
27	山岳宗教史研究叢書	名著出版	昭51	五〇〇〇〇
28	観音全集 揃十冊	歴史図書	昭49	三〇〇〇〇
29	仏教聖典選 揃八冊	岩本裕	昭49	三〇〇〇〇
30	清沢満之全集 揃八冊	法蔵館	昭28	二五〇〇〇
31	永平広録註解全書 揃四冊	伊藤俊光	昭36	二五〇〇〇

〒602 京都市上京区烏丸通今出川上ル
同志社正門前

沢 田 書 店

電話(〇七五)四五二一〇五二三
振替 京都 三一九 一四八

1	有島武郎全集	全十冊揃	函付	新潮社	昭4	七〇〇〇	
2	歴史の京都	全六冊揃	函付	淡交社	昭45	三〇〇〇	
3	花の百年	藤井大九郎	函付	文泉堂出版	昭54	三〇〇〇	
4	泉鏡花	村松定孝	函付	有精堂	昭55	二〇〇〇	
5	泉鏡花	日本文学研究資料双書	函付	有精堂	昭55	二〇〇〇	
6	泉鏡花の文学	三田英彬	函付	桜楓社	昭51	二〇〇〇	
7	国文学解釈と鑑賞	泉鏡花と谷崎潤一郎	至文堂	昭48	一〇〇〇		
8	戦後日本の歴史的分析	鈴木正四	青木書店	昭44	一〇〇〇		
9	戦後日本の歴史	上下 藤井他	青木書店	昭45	一〇〇〇		
10	戦後教育の歴史	五十嵐他	青木書店	昭47	一〇〇〇		
11	聚楽校百年史	同記念事業委員会		昭45	二〇〇〇		
12	聚楽教育会三十年誌	同教育会		昭48	一〇〇〇		
13	日本人の歴史	明治百年の人間形成	唐沢富太郎	昭42	一〇〇〇		
14	中原中也 決定版評伝	大同昇平	初版函付	角川書店	昭49	二〇〇〇	
15	内なる中原中也	青木健長	編註	初版函付	角川書店	昭49	二〇〇〇
16	幼年	大岡昇平	函付	汐出版社	昭48	一〇〇〇	
17	愚者の楽園	獅子文六	初版函付	角川書店	昭41	一〇〇〇	
18	白痴について	小林秀雄	初版函付	角川書店	昭39	二〇〇〇	
19	三島由紀夫論	光栄堯夫	五月書房	昭50	二〇〇〇		
20	豊饒の海論	審美文庫渡辺公士	初版	審美社	昭46	一〇〇〇	
21	新芸臨時増刊	三島由紀夫読本		昭46	一〇〇〇		
22	文芸 臨時増刊	高橋和己追悼号		昭46	一〇〇〇		
23	啄木歌抄	金田一京助		昭21	一〇〇〇		
24	ミルトン失楽園曲集	帆足理一郎	初版函付	青磁社	昭3	六〇〇〇	
25	ボートフランス	審美双書	ドワイエン中村訳	審美社	昭50	三〇〇〇	
26	渡抄モンテニ	随想録	関根秀雄	函付	白水社	昭17	二〇〇〇
27	賀茂真淵の人と思想	荒木良雄	厚生閣	昭18	一〇〇〇		
28	易学抄	藤村興六	友松堂	昭18	一〇〇〇		
29	東大寺	上司海雲	全国書房	昭18	一〇〇〇		
30	草刈龍	木村素衛	弘文堂	昭17	一〇〇〇		
31	柴山湯	自然と社会	片山津町公民館	昭32	一〇〇〇		
32	さのさ	限定非売品古賀一男他	八宝堂	昭41	三〇〇〇		
33	日赤百年	函付	サンケイ新聞社	昭52	二〇〇〇		

〒600 京都市下京区寺町通仏光寺下ル

三 密 堂 書 店

電話(〇七五)三五二一〇六六三
振替 京都 四一三 四七一

1	布教新辞典	加藤咄堂他	選森江書店	明43	八、〇〇〇	
2	三護摩供行法次第	岡貫雄編	日蓮堂	昭25	八、〇〇〇	
3	密宗安心教示章	今川璋蔵著	山城屋	昭9	四、〇〇〇	
4	密宗密法大全	木村茂一郎著	高島易断	昭53	五、〇〇〇	
5	密宗密法大全	木村茂一郎著	高島易断	昭54	三、五〇〇	
6	坂田徹全法話全集	坂田徹全著	高野山出版	昭53	八、〇〇〇	
7	寺河俊海法話集成	寺河俊海著	耕進社	昭10	二、〇〇〇	
8	人間弘法物語	田村隆治著	耕進社	昭10	二、〇〇〇	
9	慈恩大師伝	佐伯良謙著	山城屋	昭14	二、〇〇〇	
10	真宗七高僧伝	井上哲雄著	典教書院	昭10	三、五〇〇	
11	大國聖日蓮上人	田中智学著	春秋社	昭4	二、〇〇〇	
12	無門関提唱	朝比奈宗源著	山喜房	昭32	四、〇〇〇	
13	愚庵和尚伝	大坪草二郎著	紙硯社	昭19	二、〇〇〇	
14	白隠禅師法語録	釈書源著	誠進堂	昭7	一、五〇〇	
15	塗毒鼓 全二冊	藤田玄路編	同蔵版	昭13	一、五〇〇	
16	十六羅漢	永井龍潤著	洗心書房	昭7	一、五〇〇	
17	和浄土三郎経	伊藤精次著	仏教研究会	昭10	一、五〇〇	
18	観音経説教	吉村雄鳳著	鴻盟社	昭2	四、〇〇〇	
19	易学大講座	全八冊	加藤大岳著	昭35	六、〇〇〇	
20	高島運気活法	木村茂一郎著	高島易断	昭10	二、五〇〇	
21	研究 四柱推命秘伝書	全四冊	伊藤耕月著	神祥館	昭35	二、〇〇〇
22	九星易学秘奥	密陽新堂主人著	求光閣	明39	八、〇〇〇	
23	九星易学秘奥	密陽新堂主人著	明真堂	明29	二、五〇〇	
24	通解 家相二覧	木村安男著	大竜堂	昭9	一、五〇〇	
25	算易そろばん占ひ	高橋北堂著	心友社	昭10	三、五〇〇	
26	家相の見方と直し方	小橋正則著	正正文社	昭13	二、五〇〇	
27	神霊秘伝呪詛秘法	薬師寺有法編	吉田書院	昭40	一、〇〇〇	
28	神霊秘伝呪詛秘法	薬師寺有法編	吉田書院	昭40	一、〇〇〇	
29	神霊秘伝呪詛秘法	薬師寺有法編	吉田書院	昭40	一、〇〇〇	
30	神霊秘伝呪詛秘法	薬師寺有法編	吉田書院	昭40	一、〇〇〇	
31	神霊秘伝呪詛秘法	薬師寺有法編	吉田書院	昭40	一、〇〇〇	
32	難病即治法秘図	白井正著	曙書院	昭11	五、〇〇〇	

〒604 京都市中京区寺町通錦上ル

大 書 堂

電話(〇七五)二二一〇六八五
振替 京都 三一〇六八五

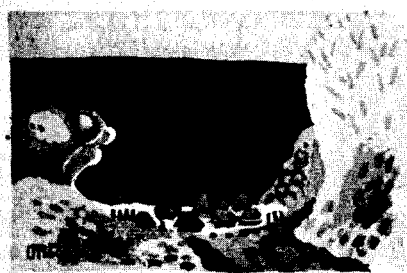
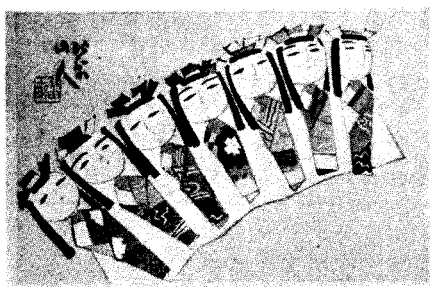
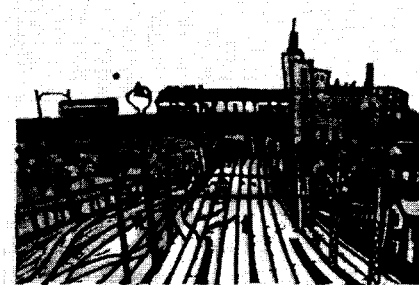
1 勝平得之 オリジナル版画(木版)雪国の少女

17×12 昭和11年 二二,〇〇〇円



2 鳥居言人 オリジナル版画(木版)五月晴

12.5×18.5 昭和11年 二〇,〇〇〇円

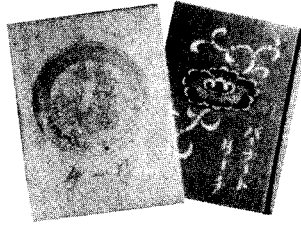
4 畑野織蔵 オリジナル版画(木版)海
12×17 昭和13年 ¥7,0003 山口 進 オリジナル版画(木版)大正池
18×12.5 昭和11年 ¥15,0006 西沢笛畝 オリジナル版画(木版)
郷土玩具 13×19 昭和12年 ¥3,0005 前川千帆 オリジナル版画(木版)観梅
13×19 昭和12年 ¥25,0008 石渡庄一郎 オリジナル版画(合羽摺)
清洲橋図 19.5×13.5 昭和12年 ¥10,0007 松尾醇一郎 オリジナル版画(木版)
12.5×17 昭和13年 ¥7,000

〒606 京都市左京区田中大久保町22
(東大路電交差北)

山崎書店

電話(〇七五) 七一一七二四八
振替 京都 〇一八三三六

1 (仏) ラシネ 世界服装史

多色石版図多数入 6Vol in4 背革装 天金 1888
¥280,0002 バーナード・リーチ
式場隆三郎 芹沢銈介
装 限定610部 建設社
昭9 ¥95,000

- 3 酒井抱一画集 中村深男編 昭51 六、〇〇〇
付抱一上人真蹟鏡・爲邸画譜 国書刊行会 昭51 六、〇〇〇
4 浮世絵の研究 藤懸静也 雄山閣 昭18 三、〇〇〇
5 宗達 山根有三 製本日本経済新聞社 昭37 三、〇〇〇
6 近世風俗書史 大村西園 寶雲舎 昭18 八、八〇〇
7 日本繪畫近世史 脇田秀太郎 敝文館 昭19 三、八〇〇
8 渡辺華山真景写生帖集成 両国橋岡稿 客坐筆記 昭50 六、〇〇〇
9 辛巳画稿 客坐録 桐箱入 定価一八万 昭50 六、〇〇〇
10 西洋の影響を受けたる日本畫 黒田源次 中外出版 昭15 三、〇〇〇
11 明治初伊太利華美術家研究 隈元謙次郎 三省堂 昭39 一、八〇〇
12 近代日本美術の研究 隈元謙次郎 東京国立文化財研究所 昭39 一、八〇〇
13 日本畫の精神 坂崎坦 東京堂 昭39 一、八〇〇
14 芋錢画集・評伝 全2冊 犬田卯編復刻 昭57 二、〇〇〇
劉生画集 武者小路実篤編 木版図入平凡社 昭37 四、〇〇〇

〒602 京都市上京区烏丸通上御霊前下ル
上御霊前町四二二

萩書房

電話(〇七五) 四三二一三七二
振替 京都 八一四三三六

- 1 京都府警察史 第一―三巻 京都府警察本部 昭55 四、〇〇〇
2 京都府市町村合併史 京都府 昭43 三、〇〇〇
3 京都府誌 上・下二冊 京都府 昭46 二、〇〇〇
4 京都府議會史 昭和二十―三十八年 京都府議會 昭46 二、〇〇〇
5 京都府議會史 昭和三十―三十八年 京都府議會 昭48 三、〇〇〇
6 京都府百年の資料 二商工編 京都府 昭47 三、〇〇〇
7 京都府百年の資料 三農林水産編 京都府 昭47 三、〇〇〇
8 京都府百年の資料 五教育編 京都府 昭47 三、〇〇〇
9 京都府百年の資料 六宗教編 京都府 昭47 三、〇〇〇
10 京都府百年の資料 七建設交通通信編 京都府 昭47 三、〇〇〇
11 京都府議會目で見える百年 京都府 昭55 二、〇〇〇
12 開局四十周年記念誌 京都府簡易保険局史 昭57 二、〇〇〇
13 体育協会史 京都府体育協会 昭54 二、〇〇〇
14 京都小学三十年史(復刻) 第一書房 昭56 二、〇〇〇
15 百年史 京都市立芸術大学 昭56 二、〇〇〇
16 京都府立医科大学百年史 京都府立医科大学 昭49 六、〇〇〇
17 京都教育大学 開学三十周年記念誌 昭55 三、〇〇〇
18 明治・大正・昭和 京都市立学校園沿革史 昭56 三、〇〇〇
19 鴨沂会々員名簿 京都第一高等女学校内鴨沂会 昭8 三、〇〇〇
20 鴨沂會雜誌 第69・70・74・76・78・81号 七折冊 昭6・12 三、〇〇〇
21 紫野の友紫苑 大12・昭7年号迄九冊大14欠紫野中學 昭6・12 三、〇〇〇
22 道しるべII 京都精神薄弱者育成会 昭57 一、五〇〇
23 京都市を中心とした校外学習見返し欠 昭27 六、〇〇〇
24 京都市美術館四十年史 逐次刊行物目録 昭57 二、〇〇〇
25 京都市美術館四十年史 逐次刊行物目録 昭57 二、〇〇〇
26 京都新能館四十年史 京都新能館 昭57 二、〇〇〇
27 京都電燈株式會社五十年史 京都電燈株式會社 昭57 二、〇〇〇
28 東寺百文書目録 第一 昭51 三、〇〇〇
29 本願寺宗會百年史 史料編 上 昭55 三、〇〇〇
30 明治の京都 田中緑紅編 京を語る会 昭34 八、〇〇〇
31 京洛風流抄(ホッピンのケツ) 石田民三 昭48 一、〇〇〇
32 宇治市総合計画 宇治市企画管理部 昭50 五、〇〇〇

〒606 京都市左京区田中里ノ前町55

福田屋書店

電話(〇七五) 七八一三三六
振替 京都 八一四三三六

- 1 学校体操解説 文部省体育研究所曲譜付 昭2 五、〇〇〇
2 改訂陸上競技法 野口源三郎 背少損 昭3 二、〇〇〇
3 ニルスブック基本体操 玉川教育研究所 昭6 四、〇〇〇
4 体育衛生統計類纂(改訂) 吉田章信 昭10 五、〇〇〇
5 筋骨薄弱者の体操 三橋体育研究所 昭19 五、〇〇〇
6 アメリカの運動遊戯 佐藤和兄 昭25 三、〇〇〇
7 スポーツ年鑑 昭和三年 毎日新聞 AB二冊 昭3 二、〇〇〇
8 吾父沢柳政太郎 富山房 昭12 二、〇〇〇
9 教育勅語図解説本 大日本国舞會本部 昭17 二、〇〇〇
10 尋常小学修身書大正期一―六復調七フット 昭45 二、〇〇〇
11 明治文化と明石博高翁 田中緑紅 昭10 二、〇〇〇
12 京都府史蹟調査報告(北) 昭11 二、〇〇〇
13 京都府史蹟調査報告(南) 昭11 二、〇〇〇
14 京都府史蹟調査報告(東) 昭11 二、〇〇〇
15 乃木大將言行録 鹿野千代夫 東亞堂 昭11 二、〇〇〇
16 蘇峰自伝 徳富猪一郎 中央公論社 昭10 二、〇〇〇
17 小村寿太郎 黒木勇吉 昭17 二、〇〇〇
18 上野精一文集(朝日新聞社) 昭47 二、〇〇〇
19 山本為三郎翁伝(朝日麦酒) 昭45 二、〇〇〇
20 創作水平 古手川忠助 二松堂 少損 昭12 二、〇〇〇
21 一人三人全集 〇〇〇〇〇〇 昭9 四、〇〇〇
22 キング 創刊号(大14、1月号) 並 昭9 二、〇〇〇
23 キング 昭3、7月。昭4、4月11月号 美 昭9 二、〇〇〇
24 現代娯楽全集 晴光館 厚冊 昭43 五、〇〇〇
25 貨幣沿革図録 塚本豊次郎編 昭10 八、〇〇〇
26 日本旅行史 吉田十一 日本交通学会 昭2 二、〇〇〇
27 通俗万宝全書 寺田義賢京都河合文港堂 昭44 二、〇〇〇
28 連珠 高木樂山 連珠圖書刊行會本 五冊 昭15 三、〇〇〇
29 将棋三日初段 丸山徳三郎 東京堂 昭13 一、〇〇〇
30 木見金次郎実践集(将棋大全集) 昭6 二、〇〇〇
31 昇段熱血棋集 神田辰之助 朝日新聞 昭13 二、〇〇〇
32 名人八段指将棋全集 大森書房 箱美 昭4 二、〇〇〇
①関根④大崎⑦花田⑧木村⑨小野

千 604 京都市中京区河原町通三条上ル

(朝日会館前)

キ ク オ 書 店

電話(〇七五)二二一七六三四
振替 京都 八一七六四〇

登山・探検特集

1	世界山岳名書全集 十三冊揃	あかね書房	昭42	二,〇〇〇
2	日本山岳名著全集 十二冊揃		昭42	一,〇〇〇
3	日本登山記録大成 全20巻(本棚付)		昭58	二,〇〇〇
4	登山術 黒田正夫 函		昭8	三,〇〇〇
5	岩登り術 水野祥太郎 再版		昭9	六,〇〇〇
6	岩と氷雪への登攀技術 海野他 初版		昭14	四,〇〇〇
7	日本の岩場 小森康行 函		昭42	三,〇〇〇
8	ロック・クライミング 安久一成 函		昭46	二,〇〇〇
9	雪山技術 安久一成 函		昭45	二,〇〇〇
10	高所登山研究 日本山岳会(編) 山溪		昭50	四,〇〇〇
11	深山久弥 山の文学全集 十一冊(第十一欠)		昭49	五,〇〇〇
12	日本山水論 小島鳥水 縮刷版		大5	五,〇〇〇
13	山の憶い出 木暮理太郎 二冊 福村版		昭8	二,〇〇〇
14	峰・峠・氷河 藤木九三 初版		昭8	二,〇〇〇
15	峠と高原 田部重治 初版・函		昭6	三,〇〇〇
16	樹林の山旅 森本次男 初版		昭15	二,〇〇〇
17	山の言葉 森本次男 初版・識語入		昭17	六,〇〇〇
18	こころの山・こころの旅 岡田喜秋 初		昭28	一,〇〇〇
19	大島亮吉研究 大島亮吉全集(5) 新書刊		昭45	一,〇〇〇
20	山・雪・探検 加納一郎 函		昭30	一,〇〇〇
21	垂直と水平の道 高木正孝・渡辺兵力		昭36	一,〇〇〇
22	森の山旅 加藤泰三(複製版) 函		昭46	四,〇〇〇
23	森林・草原・氷河・加藤泰安 初版		昭41	五,〇〇〇
24	登山歴史 児島勘次 初版		昭48	五,〇〇〇
25	臺灣の山 児島勘次 初版		昭9	四,〇〇〇
26	回想の山々 桑原武夫全集(7) 初版		昭44	二,〇〇〇
27	かんあおい 山下一夫 初版		昭49	二,〇〇〇
28	リュックサック 早大山岳部(編) 函欠		昭42	四,〇〇〇
29	山溪記 冠 松次郎 五冊揃 函		昭42	五,〇〇〇
30	黒部 冠 松次郎 正統二冊 限定函		昭40	三,〇〇〇
31	溪 冠 松次郎 限定函		昭37	三,〇〇〇
32	鹿島嶺研究 吉田二郎 限定函		昭32	五,〇〇〇

33	八ヶ岳研究 独標登山会 二冊	昭38	六,〇〇〇
34	剣岳の大将・文蔵(立山と剣に生きて六十年)	昭50	一,〇〇〇
35	山の時刻 田淵行男写真集 初版	昭42	二,〇〇〇
36	白き聖地 山田圭一写真集 私家版	昭41	二,〇〇〇
37	ヒマラヤとその探検と登山の歴史 メイスン	昭32	五,〇〇〇
38	ヒマラヤへの挑戦 一七三二五元 アンシエル	昭18	三,〇〇〇
39	天国・地獄 ヒマラヤ 福田宏年記	昭28	四,〇〇〇
40	ヒマラヤ 近藤等 初版	昭34	五,〇〇〇
41	ヒマラヤー山と人 深山久弥 初版	昭31	四,〇〇〇
42	ヒマラヤ 日本人の記録 徳岡孝夫	昭39	一,〇〇〇
43	世界処女峰初登頂物語 三木高令	昭31	二,〇〇〇
44	ヒンズークシシュ 研究誌 登山探検誌 二冊	昭55	六,〇〇〇
45	エヴェレストーその人間的記録 ノイス	昭29	二,〇〇〇
46	テンジンによるエヴェレスト征服	昭34	一,〇〇〇
47	キャンピング・シックス スマイス 朋文堂	昭39	二,〇〇〇
48	エヴェレストの魅惑 グラン・シン	昭31	二,〇〇〇
49	山に闘うアルプスからエヴェレストへ	昭31	三,〇〇〇
50	エベレスト(日本山岳会隊) 毎日新聞	昭45	四,〇〇〇
51	再び登上珠穆朗瑪 邦訳付 登頂者署名	昭54	四,〇〇〇
52	K2ー非常の山 ハウストン メスナー	昭31	一,〇〇〇
53	ヒマラヤに挑戦して バウアー	昭6	四,〇〇〇
54	カンチエンジュンガをめざして バウアー	昭31	二,〇〇〇
55	カンチエンジュンガの悲劇 表紙ムレ	昭17	四,〇〇〇
56	マカルー・全員登頂 フランコ 白水社	昭31	二,〇〇〇
57	ナンガル・パルバットの悲劇 表紙ムレ	昭17	四,〇〇〇
58	処女峰アンナプルナ エルゾーク	昭28	二,〇〇〇
59	第三の極地 デイレンフルト 朋文堂	昭31	二,〇〇〇
60	最後の青い山(ハラモシユ遠征記録)	昭36	一,〇〇〇
61	ナンダコット登攀 竹節作太(複製版)	昭53	六,〇〇〇
62	ヒマラヤ探検記 我がナンダコット征服	昭19	三,〇〇〇
63	マシラヤ登頂記 植 有恒(カバ欠)	昭34	一,〇〇〇
64	チゴリザ登頂 桑原武夫 再版	昭36	五,〇〇〇
65	アビ 悲劇と幸運の山 江上 康 初版	昭36	五,〇〇〇
66	ダウラギリ登頂報告 同志社山岳会	昭50	五,〇〇〇
67	ヤルン・カン 京大生山岳会	昭55	六,〇〇〇
68	ランタン・リルン 大阪市大山岳会	昭50	六,〇〇〇
69	氷河への旅ージュガルヒマール探査行	昭34	四,〇〇〇
70	鳥葬の国ー秘境ヒマラヤ探検記 新書刊	昭35	一,〇〇〇

72	インドラサン登頂 京大山岳部	昭39	二,〇〇〇
73	アンデスからヒマラヤへ 早大登山隊	昭41	六,〇〇〇
74	ヒマラヤ七四〇三メートル 佐藤京子(編)	昭44	四,〇〇〇
75	シャール・イ・アンジュマン登頂 大垣隊	昭44	三,〇〇〇
76	カラコルム 探検記録 京大カラコルム・ヒンズークシ	昭31	三,〇〇〇
77	砂漠と氷河の探検 木原 均(編)	昭31	三,〇〇〇
78	アフガニスタン紀行 岩村 忍 初版	昭33	一,〇〇〇
79	知られざるヒマラヤ 本多勝一 初版	昭30	一,〇〇〇
80	謎の山 アムネ・マチン クラーク	昭34	四,〇〇〇
81	エヴェレストより高い山 大森貝介	昭31	一,〇〇〇
82	中国の高峰 中国登山協会監修	昭56	二,〇〇〇
83	はるかなる天山 セミヨノフ	昭47	一,〇〇〇
84	西藏旅行記 ヘーデン	昭17	三,〇〇〇
85	彷徨へる湖 ヘーデン 岩村 他訳	昭18	三,〇〇〇
86	秘境西域八年の潜行 西川一三 二冊	昭42	二,〇〇〇
87	チベットの七年 ハーラー 少ムレ	昭30	一,〇〇〇
88	ヒマラヤを六度こえて ハンス・コップ	昭32	一,〇〇〇
89	ゴビの砂漠 東大ゴビ砂漠学術探検隊	昭18	六,〇〇〇
90	白頭山 京都帝大遠征隊報告 上製	昭10	一,〇〇〇
91	ヴァリス・アルプスー特選一〇〇コース	昭55	二,〇〇〇
92	星と嵐ー六つの北壁登頂 レビュファ	昭33	一,〇〇〇
93	マッターホルン 四つの岩壁、岩壁初登攀	昭44	六,〇〇〇
94	アイガー 北壁直登30日の記録 限定版	昭40	一,〇〇〇
95	登頂あと三〇〇(アイガー北壁初登頂記) 高田光政	昭32	一,〇〇〇
96	わが山の生涯 ロングシュ 白水社	昭32	一,〇〇〇
97	ザイルのトッパ ロングシュ 白水社	昭32	一,〇〇〇
98	若き日の山行 ラシュナル 白水社	昭31	一,〇〇〇
99	アルピニズモ・アクロパチコ ギド・レイ	昭27	一,〇〇〇
100	山の千一夜 勝見 勝 双芸社	昭36	五,〇〇〇
101	アラスカ 明治大学学術調査団	昭42	三,〇〇〇
102	St. エライアスとマッキンレー 関西登山会	昭42	四,〇〇〇
103	アラスカの山に挑む 栗林 一路	昭33	二,〇〇〇
104	大氷河を行くー南米チリ・パタゴニア探検	昭33	二,〇〇〇
105	南極大陸ー人間の記録 ウォルター・サリバン	昭19	五,〇〇〇
106	世界最悪の旅 チェリ・ガラード・スレ本	昭17	四,〇〇〇
107	白瀬中尉探検記 木村義昌他 初版	昭31	一,〇〇〇
108	白い砂漠 イエーヴァー 朝日新聞	昭31	一,〇〇〇
109	南極・第七の大陸ーその知られざるもの	昭32	一,〇〇〇
110	昭和基地・南極の日本観測隊 朝日新聞	昭32	一,〇〇〇

〒604 京都市中京区河原町通六角下ル

赤 尾 照 文 堂

電話(〇七五)二二一―一五八八
振替 京都 五一三三二一六

33	対話の原理 I	ブルーバー著	昭42	三、五〇〇
32	神の国 (2) アウグステイヌス著作集⑫	ブルーバー著	昭57	二、五〇〇
31	カルヴァン旧約聖書注解 詩篇Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	ブルーバー著	昭45	二、〇〇〇
30	カルヴァン新約聖書注解 使徒行伝上・下	ブルーバー著	昭43	二、〇〇〇
29	現代キリスト教講座 全6巻	修道社	昭38	三、〇〇〇
28	内村鑑三三聖書注解全集 全17巻	教文館	昭36	六、〇〇〇
27	内村鑑三三聖書注解全集 全25巻	教文館	昭38	三、〇〇〇
26	内村鑑三三聖書注解全集 全25巻	教文館	昭38	三、〇〇〇
25	内村鑑三三聖書注解全集 全25巻	教文館	昭38	三、〇〇〇
24	百世の師ヒルティ	小池辰雄著	昭52	一、六〇〇
23	芸術のたましい	小池辰雄著	昭51	一、六〇〇
22	無者キリスト	熊野義孝著	昭57	四、〇〇〇
21	教会と文化	熊野義孝著	昭57	四、〇〇〇
20	宗教改革 II	石原謙著	昭53	四、〇〇〇
19	初期キリスト教研究	石原謙著	昭53	四、〇〇〇
18	土曜学校講義 全10巻	矢内原忠雄	昭45	四、〇〇〇
17	九鬼周造全集 全12巻	岩波書店	昭43	三、〇〇〇
16	波多野精一全集 全6巻	岩波書店	昭43	三、〇〇〇
15	三谷隆三全集 全5巻	講談社	昭40	三、〇〇〇
14	吉満義彦全集 全5巻	講談社	昭40	三、〇〇〇
13	石島三郎著作集 全4巻	平凡社	昭50	二、〇〇〇
12	神原巖著全集 全12巻	理想社	昭46	三、〇〇〇
11	ジーンメル全集 全17巻	白水社	昭46	三、〇〇〇
10	ベルグソン全集 全9巻	白水社	昭40	三、〇〇〇
9	キルケゴール著作集 全22巻	白水社	昭43	三、〇〇〇
8	ボンヘッファー選集 全10巻	みすず書房	昭48	三、〇〇〇
7	ボンヘッファー選集 全9巻	みすず書房	昭48	三、〇〇〇
6	ボンヘッファー選集 全8巻	みすず書房	昭48	三、〇〇〇
5	ボンヘッファー選集 全7巻	みすず書房	昭48	三、〇〇〇
4	ボンヘッファー選集 全6巻	みすず書房	昭48	三、〇〇〇
3	ボンヘッファー選集 全5巻	みすず書房	昭48	三、〇〇〇
2	ルカーチ著作集 全14巻	白水社	昭44	三、〇〇〇
1	ルカーチ著作集 全13巻	白水社	昭44	三、〇〇〇

34	説経 上下	カール・バルト著	昭43	四、〇〇〇
33	政治・社会問題論文集 上・下	カール・バルト著	昭43	七、〇〇〇
32	カール・バルトの人間論	上田光正	昭52	二、〇〇〇
31	東と西の間にある教会	カール・バルト	昭52	二、〇〇〇
30	福嶺と律法	菅田吉論文集	昭54	三、〇〇〇
29	バルト神学研究	滝沢克己	昭47	三、〇〇〇
28	カール・バルト研究	神田盾夫	昭37	二、〇〇〇
27	聖書 現代神学双書 ドッド	小林信雄	昭38	二、〇〇〇
26	信徒の神学 クレマー	小林信雄	昭38	二、〇〇〇
25	宣教の神学 クレマー	小林信雄	昭38	二、〇〇〇
24	宗教改革史	モルトマン	昭41	二、〇〇〇
23	希望の神学	高尾利数	昭45	三、〇〇〇
22	世俗都市	塩月賢太郎	昭43	三、〇〇〇
21	ルターと現代	倉松 功	昭43	二、〇〇〇
20	神の死の神学	ハミルトン	昭44	二、〇〇〇
19	時の中心の神学	コンツエルマン	昭42	二、〇〇〇
18	ドイツ教会闘争への道	吉村善夫	昭39	二、〇〇〇
17	現代の神学と日本の宣教	山本 和	昭36	二、〇〇〇
16	キリストとキリスト者	山本 和	昭36	二、〇〇〇
15	神と悪魔 今日	山本 和	昭36	二、〇〇〇
14	生けるキリスト	山本 和	昭36	二、〇〇〇
13	現代とプロテスタント倫理	山本 和	昭36	二、〇〇〇
12	ニヒリズム	西谷啓治	昭42	一、五〇〇
11	キリスト教大事典 改訂新版	教文館	昭43	二、五〇〇
10	キリスト教の起源 上下	山谷省吾	昭46	三、〇〇〇
9	キリスト教の源流・展開 全2	石原謙	昭47	三、〇〇〇
8	原始キリスト教とグノーシス主義	関根正雄	昭44	二、〇〇〇
7	古代イスラエル研究	関根正雄	昭44	二、〇〇〇
6	イスラエルの思想と言語	関根正雄	昭44	二、〇〇〇
5	ヘブライ人としてギリシア人の思惟	石原謙	昭43	二、〇〇〇
4	基督教史	金子武蔵	昭43	二、〇〇〇
3	キリスト教史	藤代泰三	昭34	二、〇〇〇
2	基督教の本質	山谷省吾	昭34	二、〇〇〇
1	キリスト教の教義 現代キリスト教講座	森田雄三郎	昭31	二、〇〇〇
0	キリスト教の近代性	宮本武之助	昭47	二、〇〇〇
-1	現代キリスト教人間像	宮本武之助	昭42	二、〇〇〇

73	キリスト教と文化	本宮彌兵衛	昭24	一、〇〇〇
72	近代思想と基督教	デユモリン	昭22	二、八〇〇
71	現代キリスト教倫理	松村正己	昭37	二、五〇〇
70	根源的論理の探求	田代 元	昭50	四、〇〇〇
69	キリスト教の弁証	沢崎堅造	昭23	一、〇〇〇
68	キリスト教経済思想史研究	有賀鉄太郎	昭44	四、〇〇〇
67	思想における存在論の問題	大木英夫	昭41	四、〇〇〇
66	ピエーリタニズムの倫理思想	比屋根安定	昭48	八、五〇〇
65	宗教経験の諸相 ジェイムズ	越智武臣	昭47	二、〇〇〇
64	若きルターとその時代	今野国雄	昭48	二、〇〇〇
63	宗教改革の時代 エルトン	森本 直	昭48	二、〇〇〇
62	西欧中世の社会と教会	坂田徳男	昭44	一、〇〇〇
61	中世末期の教会領研究	田代 保	昭44	一、〇〇〇
60	神よりの逃走	賀川豊彦	昭46	三、〇〇〇
59	神を待ちのぞむ	賀川豊彦	昭46	三、〇〇〇
58	ジョン・ウェスレー信仰日誌	賀川豊彦	昭46	三、〇〇〇
57	アッシシの聖フランシス	下村 彰	昭42	二、五〇〇
56	近代の神学	中央神学校	昭51	一、五〇〇
55	神学の苦悩	高尾利数	昭51	一、五〇〇
54	象徴的神学	有賀鉄太郎	昭21	一、〇〇〇
53	解釈的神学	武蔵一雄	昭50	二、〇〇〇
52	神学と宗教哲学との間	戸村政博	昭51	三、八〇〇
51	キリスト教と仏教の対比	海老沢亮	昭34	二、八〇〇
50	日本キリスト教百年史	石原謙	昭42	三、〇〇〇
49	内村鑑三・新渡戸稲造	鈴木萬里	昭9	二、〇〇〇
48	追想 内村鑑三先生	溝上茂夫	昭10	二、五〇〇
47	福音主義的教育観	柳原 光	昭46	五、〇〇〇
46	関係的教育	三笠宮崇仁	昭42	六、五〇〇
45	聖書年代学	新教出版社	昭54	四、〇〇〇
44	聖書辞典	矢内原忠雄	昭56	一、二〇〇
43	聖書講義 I	矢内原忠雄	昭53	一、八〇〇
42	聖書講義 II	矢内原忠雄	昭53	一、八〇〇
41	聖書の思想・歴史・言語	蛭沼寿雄	昭37	二、〇〇〇
40	新約本文批判	蛭沼寿雄	昭37	二、〇〇〇

〒604 京都市中京区丸太町通千本西入南側

八木書店古書部

電話(〇七五)八一—三八九〇

1	中島来章筆 書狀一通	五、〇〇〇
2	大雅堂筆 火要鎮 墨摺一紙	三、八〇〇
3	洛北大雲寺見取絵図 3紙	明治初
4	吉川觀方筆 風俗図集 受領書一通	昭11
5	塩川文麟筆 其角句并画 小品一紙	八、〇〇〇
6	備南合筆 書狀一通 江戸へ下向支度銀	五、〇〇〇
7	福岡 脇田天筆 和歌一紙	三、八〇〇
8	平野五岳筆 書翰一通郵便脚夫画用箋使用	明26
9	米山宗泰筆 書狀一通莊内藩戊辰史編纂に就て	三、八〇〇
10	函館市街全圖一紙 しつけ有傷物ボロ	明44
11	短冊鶴田卓池	八、〇〇〇
12	短冊忍阿七言絶句 賀茂彦香 各一枚	弘化3
13	短冊立斎 漢詩 上河成美京錦鳥丸医師 文政 各一枚	三、〇〇〇
14	短冊近江坂田郡柏原村薬師尊住長城筆黒船来る長歌	三、〇〇〇
15	短冊飛鳥井大納言従一位雅香 明和2	三、八〇〇
16	短冊山中松月近江日野人 辻墨路日野人 各一枚	三、〇〇〇
17	短冊丹波屋七兵衛号了祐木綿問屋大坂人	明11
18	短冊湖田青郎 伊勢国多氣郡馬之上村	明30
19	短冊加藤小自在浪花人 八田知紀 各一枚	三、〇〇〇
20	短冊雲邊筆養老之滝古画 湯川松堂紅葉句画 各一枚	二、〇〇〇
21	短冊紫紅画 片岡籬園狂歌判者 明治初	五、〇〇〇
22	短冊劉小希 和歌	三、〇〇〇
23	短冊荷田東丸 夜半亭呉庄 各一枚	三、〇〇〇
24	短冊堀内鶴雄 伊勢飯島郡宮前村	二、〇〇〇
25	短冊北村吳明 京都人湖南三井の風景句	天保頃
26	短冊岩井藍水色蕉堂12世 甲斐虎山連の画 各一枚	三、八〇〇
27	短冊青蓮院宮尊祐親王	五、〇〇〇
28	短冊西川貞 近江八幡の人北海道漁業に従事	三、〇〇〇
29	短冊駒井慶邦 越後の人 元治頃	三、〇〇〇
30	短冊久保田米齊句画 森一鳳画有賀長隣賛 各一枚	五、〇〇〇
31	短冊人見少華画伯業師寺和歌	五、〇〇〇
32	短冊倉友千信紙 松村英一 中西石陰 各一枚	二、〇〇〇
33	短冊清水蓮成 宗易作茶さじを詠む	三、〇〇〇
34	短冊尾州名古屋御宮権現坊重阿	二、五〇〇
35	短冊三井次郎左衛門高業号嘉栗 狂歌集有寛政11	一五、〇〇〇
36	短冊足代弘訓 白嶺和尚 各一枚	三、八〇〇
37	短冊早川来之 卒秋門 京都人 寛政7	一五、〇〇〇
38	短冊山階宮晃親王 森川曾文画 明治 各一枚	五、〇〇〇
39	短冊山科正恒号白雲 安政大獄連坐	三、八〇〇
40	短冊大徳寺誠堂和尚 淀藩土山岡墨仙漢詩 各一枚	三、八〇〇
41	短冊天野弘九 鎌倉の狂歌師唐衣橘州門 文化6	一五、〇〇〇
42	短冊松井一横別号一内筑前若松の人 有節 各一枚	五、〇〇〇
43	短冊翠雨越後の人弘化年 確石芭蕉堂公成門 各一枚	三、八〇〇
44	短冊市田和雄張の人 大西松花讀歌人 明27	各一枚
45	短冊真崎親山菊之画 熊本本人 虫入	三、〇〇〇
46	短冊東海赤井繩 高松藩土山岡墨仙里門 文久2	一五、〇〇〇
47	短冊忌部孝秀慶應4 弘根北野神社詞官 各一枚	三、〇〇〇
48	漢字雜話 樋口勇夫 大3	三、〇〇〇
49	頼山陽書讀帳 主人不相云々折帳 虫入 嘉永3	三、八〇〇
50	謡曲けい古見台一器 らんまや西脇製彫刻	五、〇〇〇
51	弘安書札禮 晴通郷写 虫入 慶安2	三、〇〇〇
52	貞永式目 上下2冊 山田一良 明38	各一枚
53	画学生朽木一峰画習作 辻佐雄 中島卯一郎 各一枚	三、〇〇〇
54	画学生船越謙画習作 辻佐雄 中島卯一郎 各一枚	三、〇〇〇
55	画学生鈴木龍山画習作 長谷川陸蔵 各一枚	三、〇〇〇
56	画学生宮城幸三画習作 片山松雲 明37	各一枚
57	画学生江江公舟画習作 武田規太郎 明37	各一枚
58	画学生横田麟吉画習作 広江精一郎 明38	各一枚
59	組下条目之儀 定書達し状一通父母に孝行 江戸末	三、〇〇〇
60	西山芳園 展覧目録 13回忌 明12	二、五〇〇
61	筆斎文録 京師石津瀧園先生稿本	八、〇〇〇
62	順順筆 時代色紙3枚 虫入 明10	三、〇〇〇
63	印度案内アルバムパンフレット等一括	五、〇〇〇
64	地勢一紙 葛野郡松尾社旧社人屋敷地	明6
65	少女用玩具 模様18枚 細工物控譜	明治
66	下京菅大臣社元治元火に灰辛苦再建云々一紙	明3
67	興志忠志草3冊 虫入ゴロ本 太刀外色々々	五、〇〇〇
68	創刊号イノンド文化 昭33 都会人 昭10	各一冊
69	創刊号自然 昭22 日本諸学 昭17 齊大15	各一冊
70	創刊号ニルメテア 昭36 女性と自動車 昭35	各一冊
71	満州字文書	大正頃
72	京都商業会議所選舉委任状并同入場券35枚西陣	明30
73	鉄門筆 虎屋主人之為の虎之絵一紙	五、〇〇〇
74	次加待土砂導師着座云々真言宗卷経一卷初欠	寛文10
75	京都区長達し写中年寄達し写3冊 明5・6	五、〇〇〇
76	宗旨手形一紙 山門西教寺末 西雲寺筆	慶應3
77	元治元出火之節役所へ駈付相働川船方役所元治	三、〇〇〇
78	八幡ノ社起原新羅國ノ僧云々熟田社より云々	三、八〇〇
79	藩札5枚 芸州大島明和元 南都改喜多院一各枚	三、八〇〇
80	江州蒲生郡佐々木社豆木太陣大鼓謂書墨摺一紙	三、〇〇〇
81	藤原家系図 初欠 室町期	三、〇〇〇
82	永觀堂主 東山天華筆 竹之図一紙虫入	三、八〇〇
83	岸田稻庵筆 句入り消息一通 87才 明34	一五、〇〇〇
84	海中出現法華經28品画像縁起一紙越中婦負郡本法寺	三、八〇〇
85	膳所法性寺智嚴筆消息一通封筒付日蓮宗	三、八〇〇
86	北村九起筆 句入り消息一通 東山芭蕉堂住	三、八〇〇
87	本日日蓮宗本陣寺間宮日符上人筆消息一通 江戸末	三、八〇〇
88	下野国芳賀郡八条村真宗本誓寺文書	江戸末
89	都の名華 創刊号廣告の色紙ベロ本	明23
90	周防俳人横沼素兄 日光山句拓本一紙	明14
91	元和五年文書一通此使に15兩丁銀二兩云々	五、〇〇〇
92	禪原拾三始更筆 鮎之図 絵画料一年 明43	五、〇〇〇
93	医家 佐々木道春筆 消息一通	五、〇〇〇
94	英夷渡来に就て將軍自筆写 江戸町觸写一通	三、〇〇〇
95	衣笠山下指月和尚筆 遠州宗甫居士之茶湯之詞一紙	三、八〇〇
96	借屋請狀一通切支丹宗又浪人御構之者無御座	喜永7
97	節也筆 俳句入書狀一通	三、〇〇〇
98	宿料請取通 一通 京御幸町大日町	天保8
99	松平薩摩守側近に語られしは少年娼家に遊ぶ一紙	三、〇〇〇
100	巨勢金起筆 芭蕉像并賛一紙 墨摺	二、五〇〇
101	藏山和尚筆 大乗月舟和尚之詩一紙	三、〇〇〇
102	馬主神 肉筆 中国民画	清末
103	泊洲散人筆 連詩二紙曹洞宗和尚?	江戸末
104	高木九華筆 松岡賛一紙	三、〇〇〇
105	神農像 肉筆古画 一幅	二、五〇〇
106	龜長筆 消息一幅	三、八〇〇
107	船光德澄筆 横物一幅 大悲漁火 四字	天保9
108	演宗和南筆 天王大方丈宛消息 幅慈眼寺云々	三、〇〇〇
109	金閣寺之図 肉筆一紙	明治
110	心越祥師画 菊之図 一幅	五、〇〇〇
111	富田溪仙筆 宝舟之図 一幅	一〇〇、〇〇〇

国書刊行会

東京都豊島区巣鴨3-5-18 (917)8287 ●注文制です。お近くの書店にお申し込み下さい。

目で
みる

遊里

芳賀登監修／時代は江戸。着飾った遊女に粋人取りの男たち——芝居と並んで風俗・流行の震源地であった遊里（江戸吉原・京都島原・大阪新町・長崎丸山）の情景を集大成。全2巻・各七五〇〇円



新編

江戸風俗図絵集

国書刊行会編／江戸時代の生気あふれる庶民の生活ぶりを今に伝える絵草子18種類を収録。広範にわたる江戸風俗を当代一流の絵師により楽しみながら識ることができる格好の書。全2巻・各七五〇〇円

江戸世渡風俗図会

清水晴風編／絵草子売、葉売、門説教、髪結、風鈴売……。江戸より明治にいたる、今は昔の世渡人。庶民が智慧をしばった生業の数々を二八〇点余の風趣あふれる画で活写。全2巻・各四五〇〇円

江戸職人百姿

国書刊行会編／絢爛たる江戸文化を支えたさまざまな職人たちの姿を巧みな画で紹介する。八五〇〇円

目でみる

江戸をどり百番

国書刊行会編／華やかに咲き誇る江戸芸能の粋、歌舞伎踊りの数々を流麗な画で描く。八五〇〇円

◎新刊 好評発売中!!

小林泰明著 三部作

実占 易占術入門 B6判 定価 三、〇〇〇円

実占 四柱推命学入門 B6判 定価 二、三〇〇円

実占 手相学人相学入門 B6判 定価 二、五〇〇円

生田開山著 三部作

陰陽道経学 悟成論 A5判 定価 三、五〇〇円

陰陽道経学 終論 A5判 定価 三、五〇〇円

陰陽道経学 完結論 A5判 定価 三、五〇〇円

◎近刊 易占透視術 嶋謙州著

吉祥真雄著

曼茶羅圖説 A5判

定価 二、五〇〇円 付現図種子曼荼羅 三、三〇〇円

吉祥真雄著

般若心経秘鍵講義 A5判

定価 二、〇〇〇円 三、三〇〇円

宮宗孝正著

追善供養のお話とその心得 B6判

定価 一、二〇〇円 二、二五〇円

文政堂

〒600 京都市下京区寺町通五条上ル
電話 (075) 351-9363 番
振替 大阪 7-3151 番

三密堂書店

〒600 京都市下京区寺町通仏光寺
TEL (075) 351-9663 番

◆郷土の文化遺産

限定二〇〇部

近江日野町志

全三冊

日野町志編纂委員会編／昭和5年刊の復刻

信長・秀吉に仕えた会津百二十万石の領主に栄達した蒲生氏の城下町として繁栄した近江日野は、また八幡及び神崎郡の五個荘と並ぶ近江商人輩出の三大湖義と称され、わが国流通経済に多大な影響を与えた地域でもある。本書は、単に一町の歴史にとどまらず中世史、経済史研究に不可欠の貴重資料。

【巻上】

総論／地理／上古より室町時代／蒲生氏初世より城下町に至る／日野城下町時代／附録伊勢軒封以後の蒲生氏と日野／商人町時代志

【巻中】

商人町時代志(続)／明治維新より現代に至る／教育及衛生／商業志／工業志／農業志／官衛公署、会社、団体志

【巻下】

神社志(馬見岡綿向神社・神道教会也)／寺院志(寺院仏堂一覽表・寺院由緒也)／文筆志／交通及旧跡名所／人物志／軍事志

■菊判・上製クロス装・函入・本文二、六〇四頁・折込附図16枚
■予約特別定価三四、〇〇〇円(定価三七、〇〇〇円)

和歌・俳諧にかかわる古今各界の名流を網羅!!

和歌俳諧人名辞書

《本書の特色》

・中世から現代に至る和歌・俳諧等にかかわる人物六八〇〇余名を網羅
・人物の傍に登載短冊集及び巻数・頁数等を付した。
・巻末に索引を付して名・号のみでも検索を可能にした。

《主要掲載者》

後宇多天皇／醍醐天皇／近衛・鷹司摂関家／冷泉・飛鳥井家／尊氏／秀吉／家康／春磨／契沖／宣長／一休／澤庵／芭庵／芭蕉／蕉村／子規／虚子／鷗外／漱石／谷崎／龍馬／グレン・ミラー他

近刊予定

●中野莊次編／定価八、五〇〇円
A5判・クロス装・カバー付函入・本文三六四頁・名索引六三頁



臨川書店

本社 〒606 京都市左京区今出川通川端東入50M
支社 〒101 東京都千代田区神田駿河台2-11-16
〒530 大阪府北区芝田1-6-2阪急古書のみち

TEL (075) 721-7111
TEL (03) 293-5021
TEL (06) 374-1300

萬象録

高橋帚庵日記 全九巻

大演説也・熊倉功夫・簡井統一校訂

本書は、『大正名器鑑』『大正茶道記』を遺した「近代茶道鼓吹の第一人者」高橋帚庵(義雄)の明治45年5月〜大正10年6月までの政治・経済・文化・美術・芸能その他の多岐にわたる話柄を満載した一大メモワールです。最終巻に索引と解説を付す。

●A5判・平均三〇〜五〇〇頁／平均定価七、五〇〇円

日蘭交渉史の研究

金井 圓著

三浦接針を乗せたリ・フデ号の漂着から、徳川鎖国・オランダ東インド会社との解散・外国船打払い令を経て、開国に至る二世紀半の対外関係史の要をなす日蘭交渉史の知られざる諸局面を、主として在外未刊行史料に基づき実証する論考一三篇に、通史・史料を添える。

最新刊!

●A5判・五〇〇頁／定価七、八〇〇円

既刊
中世民衆生活史の研究 三浦圭一著 六、八〇〇円
対外関係と文化交流 田中健夫著 九、八〇〇円
京都中世都市史研究 高橋康夫著 七、八〇〇円

宮崎圓遯著作集

全七巻

第二巻 親鸞の研究(下)

〔解説〕千葉乗隆

〔内容目次〕親鸞聖人の門第一班／「歎異抄」の成立と教団の動向／親鸞聖人鏡御影／安城御影とその意義／他21篇

最新刊!

●A5判・四二〇頁／定価六、二〇〇円

明朝体の歴史

最新刊

竹村真一著

●A5判・二四八頁／定価二、三〇〇円
今日最も親しまれている明朝体の成立・発展の過程を中国の源流からわが国への継承・変遷のうちにさぐったユニークな文字文化史。関係写真多数収録

思文閣出版

本社 京都市左京区田中
支社 東京都千代田区三崎町2-20

〒606 京都市左京区田中関田町2-7
〒101 東京都千代田区三崎町2-20

(075) 751-1781
(03) 263-6348

〔呈内容見本〕